

平成17年度

掛之上遺跡41・44・45

—写真図版編—

2006

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

平成 17 年度

掛之上遺跡 41・44・45

－ 写真図版編 －

2006

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成17年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、掛之上^{かけのうえ}遺跡の第41・44・45次発掘調査報告書写真図版編（臨時交付金分報告書）である。なお、第45次調査区（まちづくり交付金区画道路事業分）については第44次調査区と一体化した調査区のため本書にて報告することにした。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施行係が行った。特に、公共施行係の鈴木茂、溝口文康、小池恵子、藤原資郎、藤田佳三、松井健尋の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第41・42次発掘調査区空中写真全景
(2) 第41・42次発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版2 (1) 第44・45次発掘調査区空中写真全景
(2) 第44・45次発掘調査区空中写真全景
- 図版1 (1) 第41次発掘調査区空中写真全景 (2) 第41次発掘調査区全景
- 図版2 (1) 第41次発掘調査区全景 (2) SH9
- 図版3 (1) SH9 (2) SH9
- 図版4 (1) SH9 (2) SH9P6
- 図版5 (1) SH9P8 (2) 調査区西端柱穴群
- 図版6 (1) SZ3 (2) SD5
- 図版7 (1) SH9柱穴作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版8 (1) 第44・45次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第44・45次発掘調査区空中写真全景
- 図版9 (1) 第44・45次発掘調査区空中写真全景 (2) 第44・45次発掘調査区全景
- 図版10 (1) 第45次発掘調査区全景 (2) 第44・45次発掘調査区全景
- 図版11 (1) SB2 (2) SB2
- 図版12 (1) SB2 (2) SB2出土石器
- 図版13 (1) SB22 (2) SB22
- 図版14 (1) SB23 (2) SB23
- 図版15 (1) SB2北側柱穴群・炉 (2) SB2北側柱穴群・炉
- 図版16 (1) SH1 (2) SH1
- 図版17 (1) 調査区北端柱穴群 (2) SD26
- 図版18 (1) SD26 (2) SD26
- 図版19 (1) SD26内土坑SK85 (2) SD26土橋
- 図版20 (1) SD26土層 (2) SK78・79
- 図版21 (1) SK63 (2) SK64・66・67
- 図版22 (1) SK69 (2) SK78
- 図版23 (1) SK82～84 (2) SX11
- 図版24 (1) 第44次発掘調査区西壁土層 (2) 第45次発掘調査区南壁土層
- 図版25 (1) 重機による表土掘削作業風景 (2) 人力による作業風景

※表紙写真 遺跡遠景写真（上が磐田原台地で、右側に原野谷川が蛇行して流れる。橋より手前の住宅地が掛之上遺跡が立地する段丘である。）

写 真 图 版



(1) 第41・42次発掘調査区空中写真全景 (右側は第42次発掘調査区。南より)



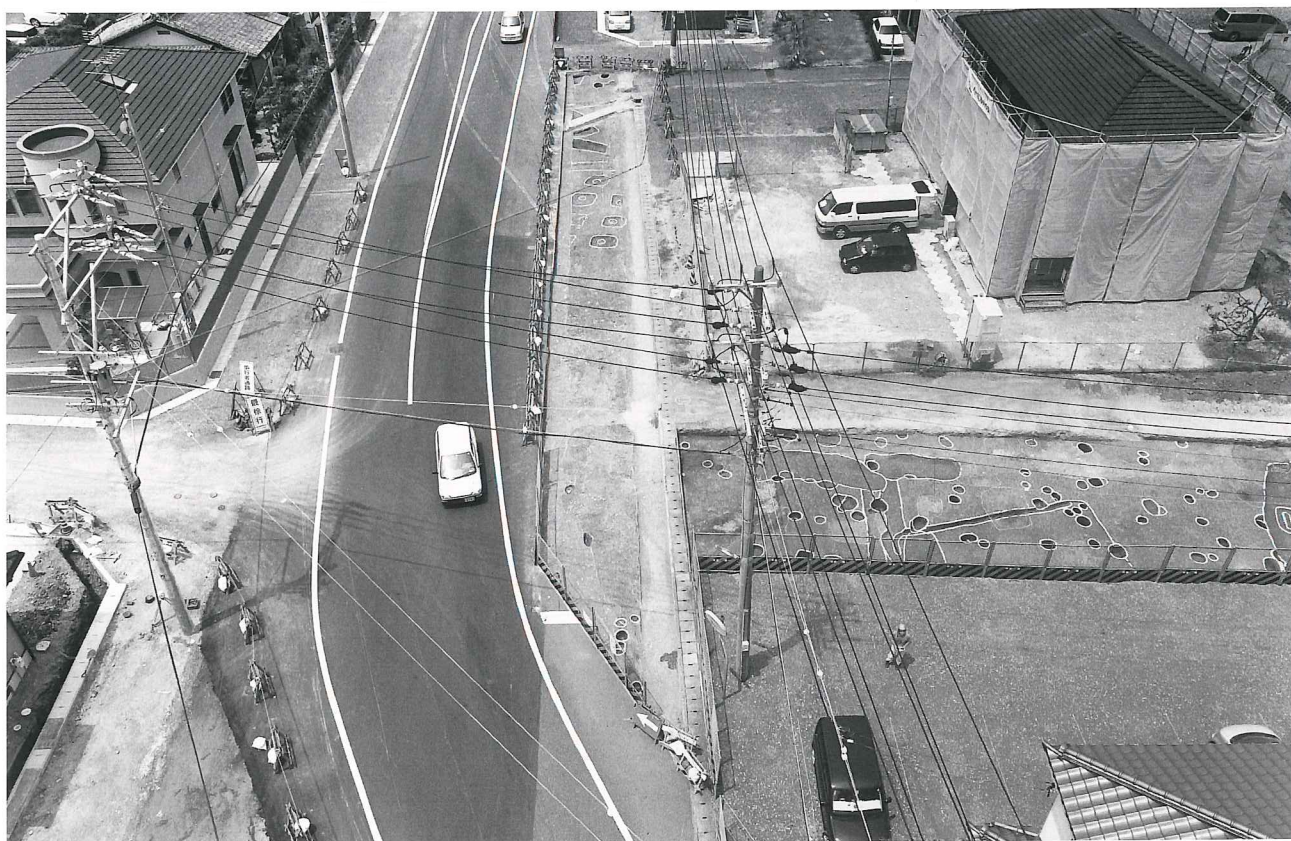
(2) 第41・42次発掘調査区空中写真全景
(中央に総柱の大型掘立柱建物が見られる。上が南方向。真上より)



(1) 第44・45次発掘調査区空中写真全景（左側は第45次発掘調査区。南より）



(2) 第44・45次発掘調査区空中写真全景
（竪穴住居と柱穴が密集して見られる。上が西方向。真上より）



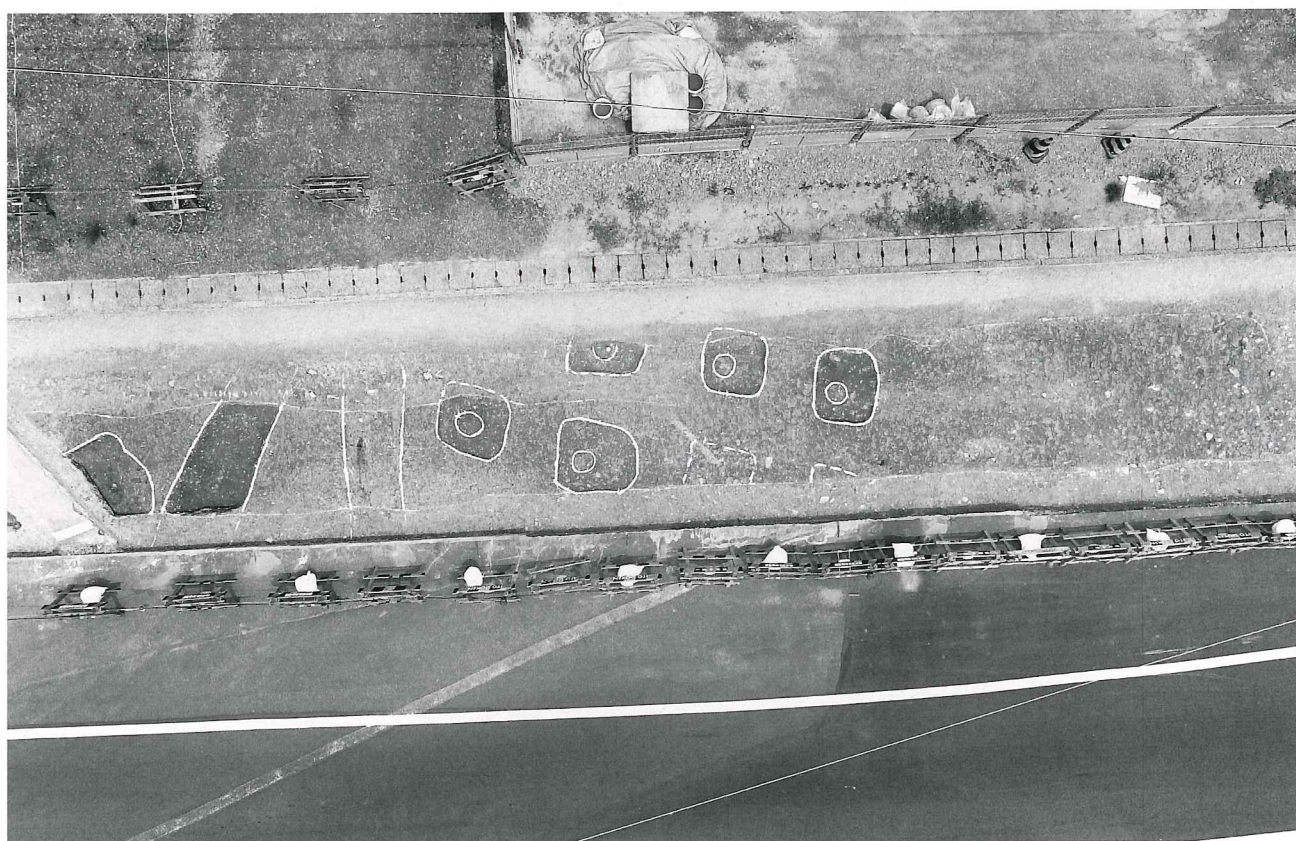
(1) 第41次発掘調査区空中写真全景（右側は第42次発掘調査区。東より）



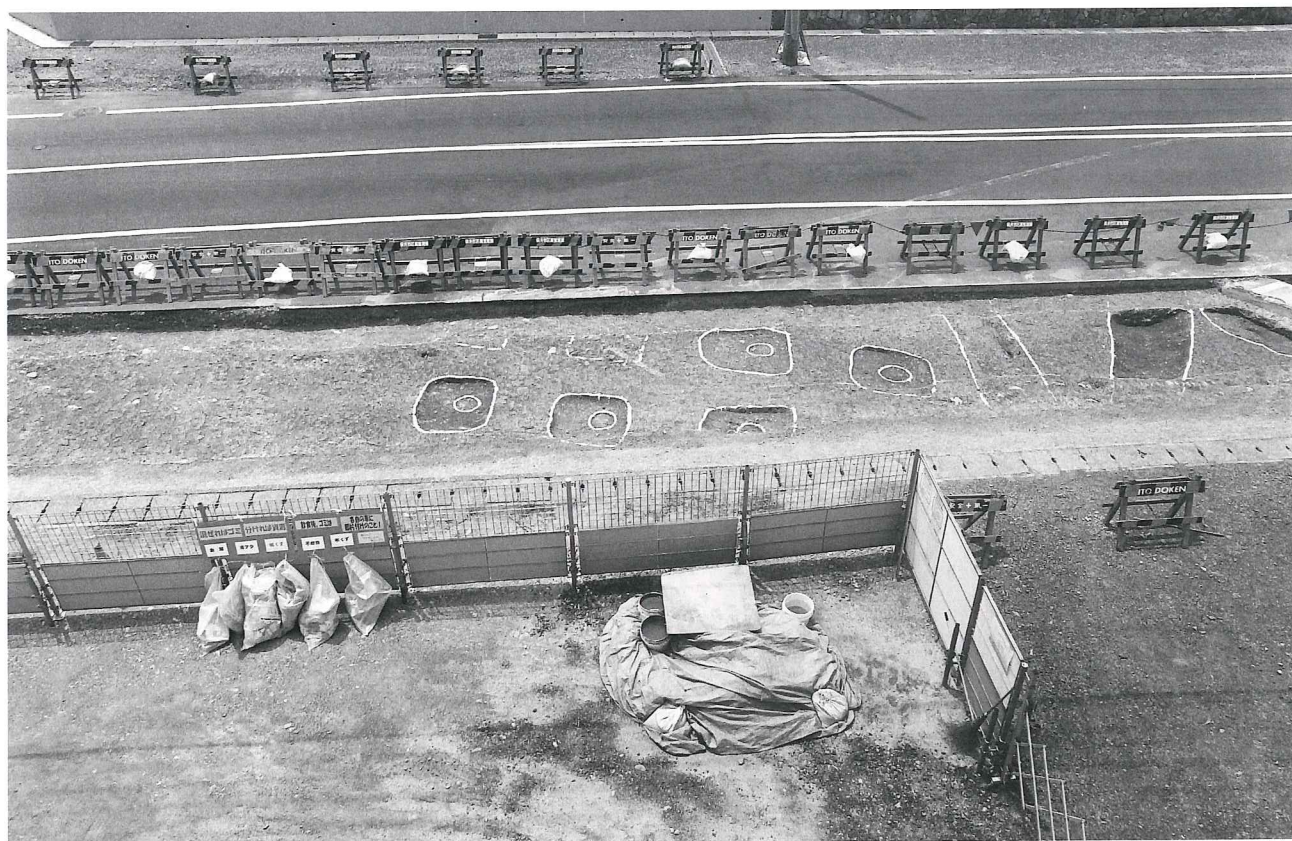
(2) 第41次発掘調査区全景（中央に総柱の大型掘立柱建物が見られる。西より）



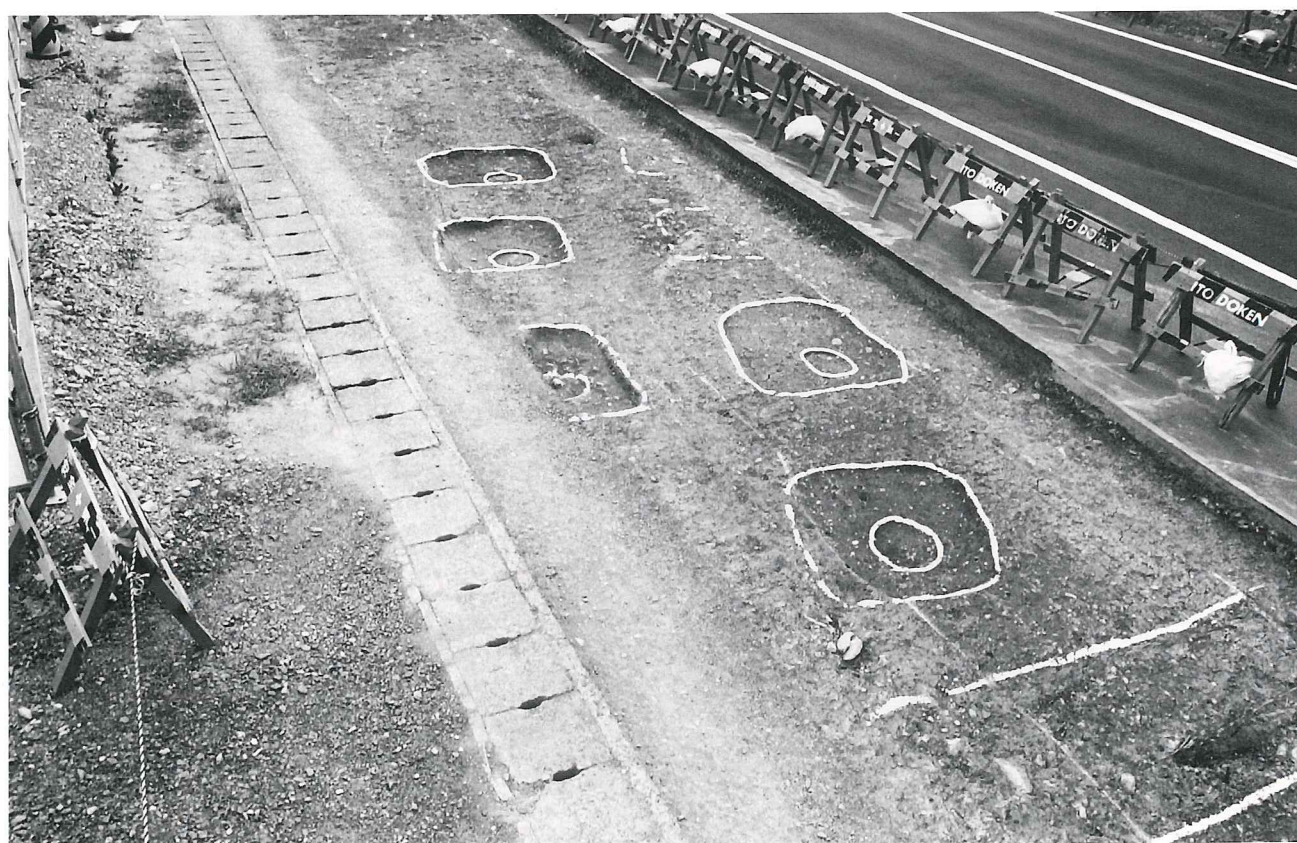
(1) 第41次発掘調査区全景（遺構面が削平され遺構の数が少ない。東より）



(2) SH9（3間×4間の総柱の大型掘立柱建物。上が北方向。真上より）

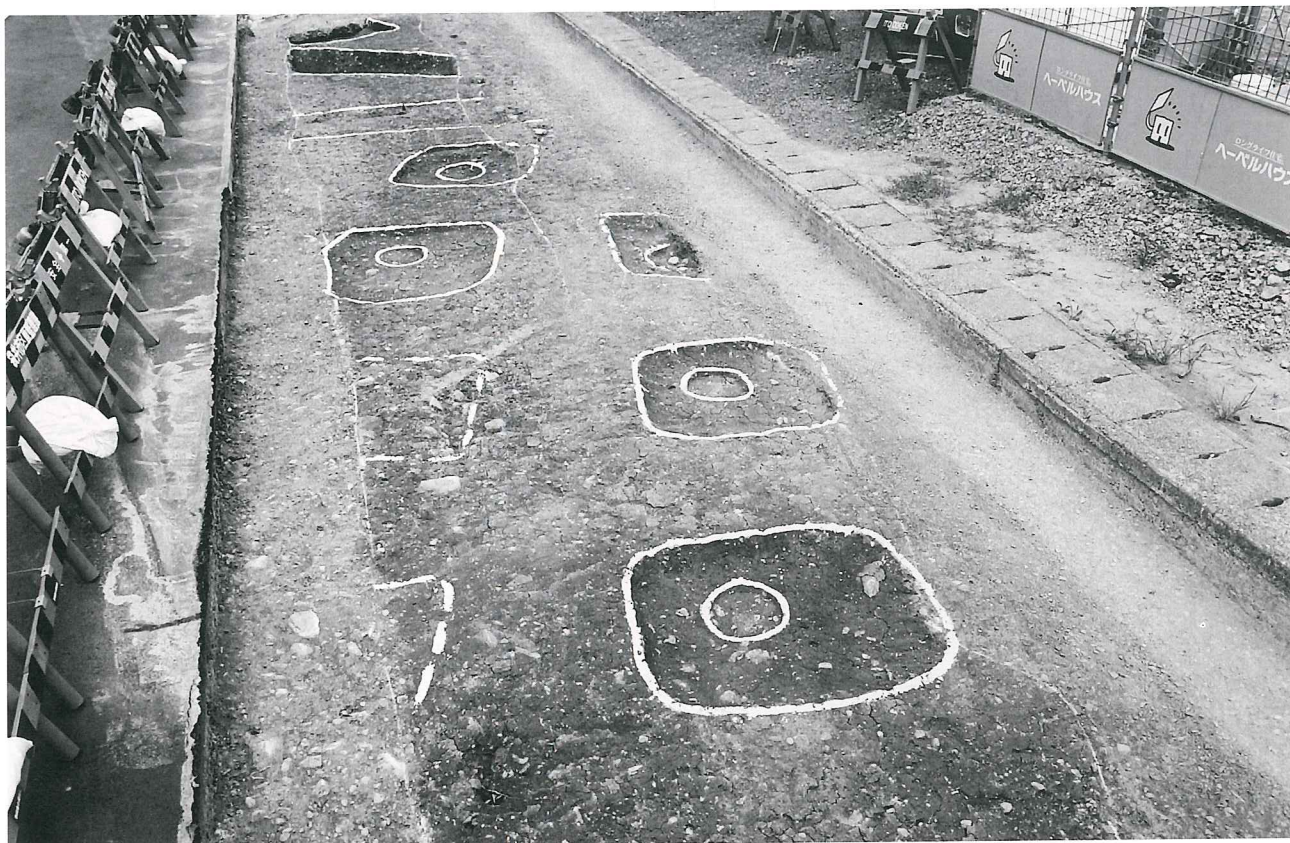


(1) SH9 (正倉南北方向西列の倉庫建物と考えられる。北より)



(2) SH9

(右側道路下は第28次発掘調査区でこの建物の続きが検出されている。西より)



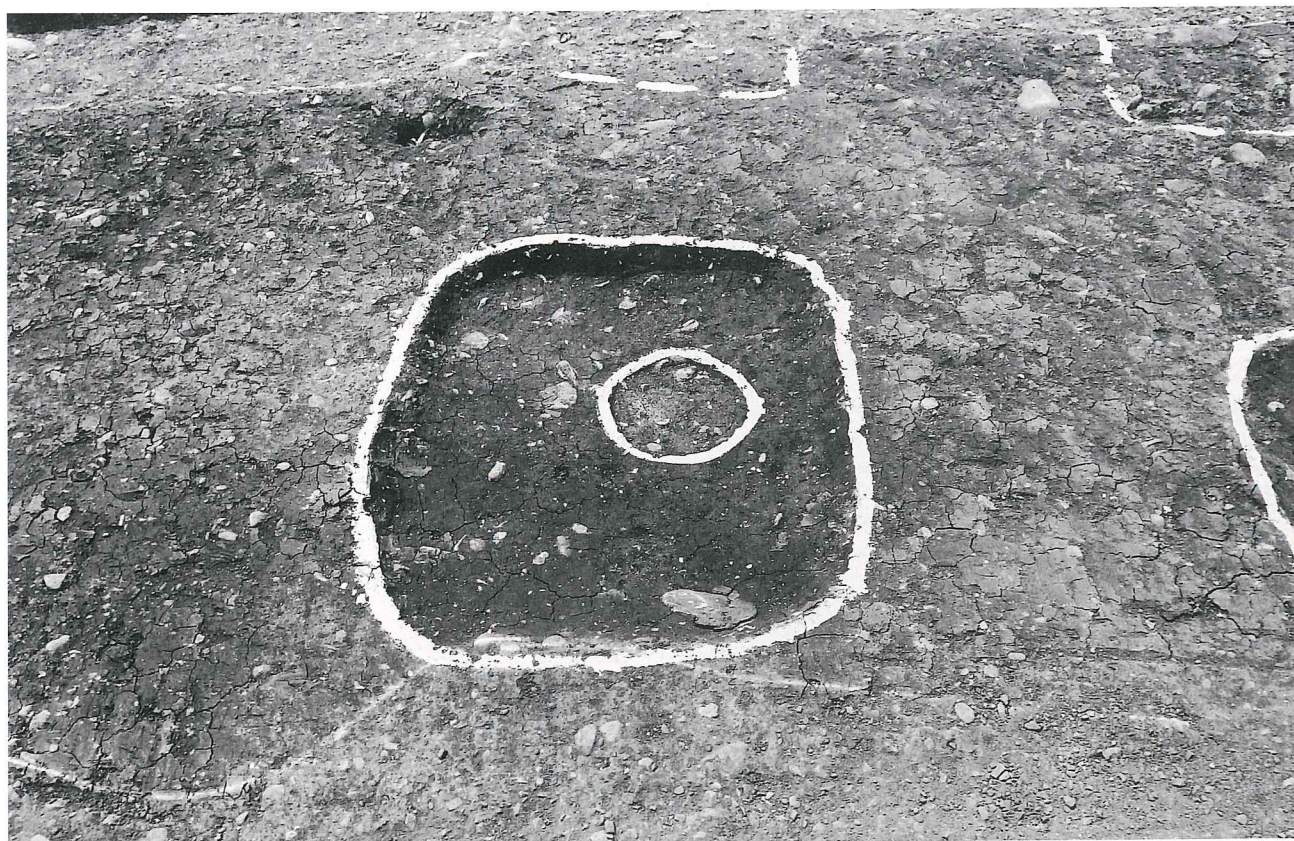
(1) SH9

(地下ケーブル等で一部破壊されているが建物の全体は復元できた。東より)



(2) SH9 P 6

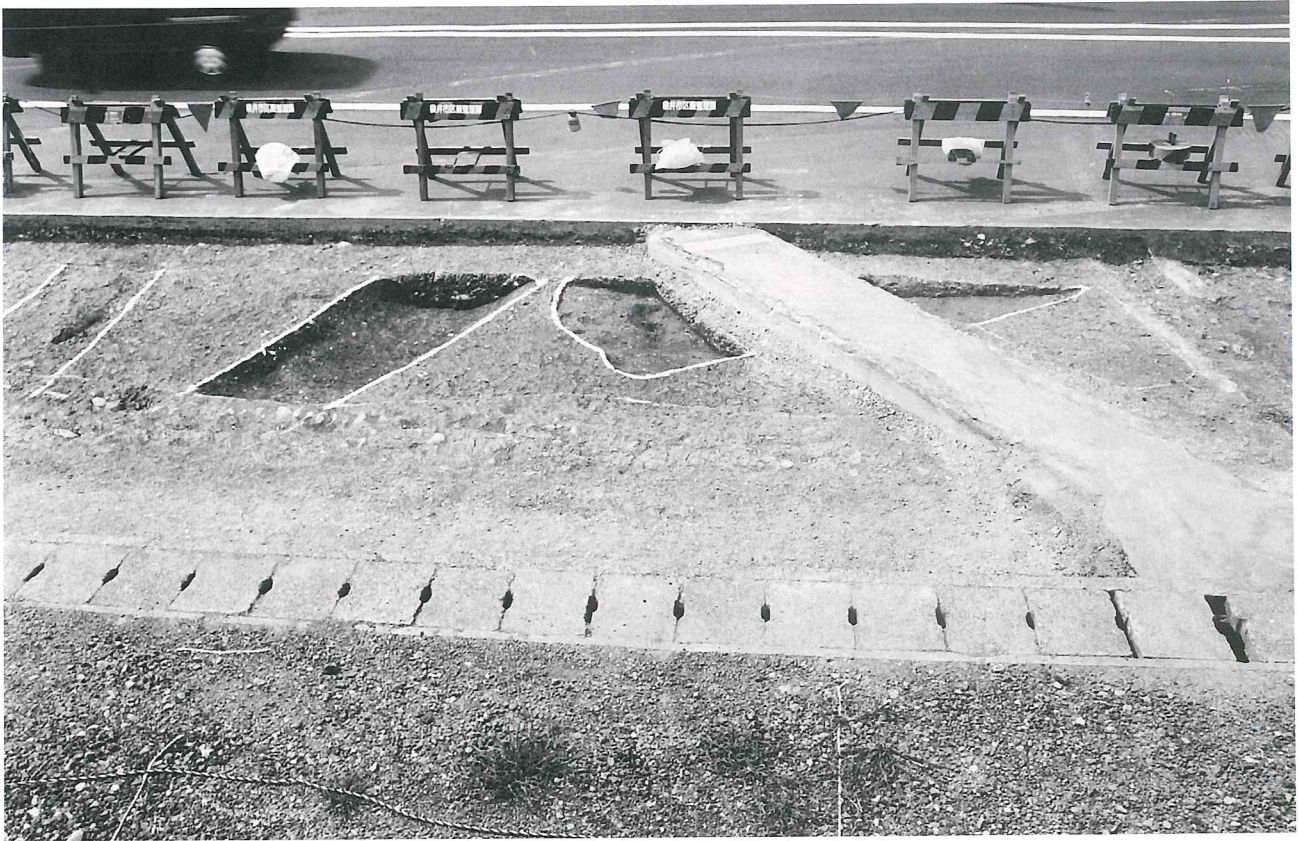
(方形の掘方もち、直径30~50cmの柱痕跡が確認できた。北より)



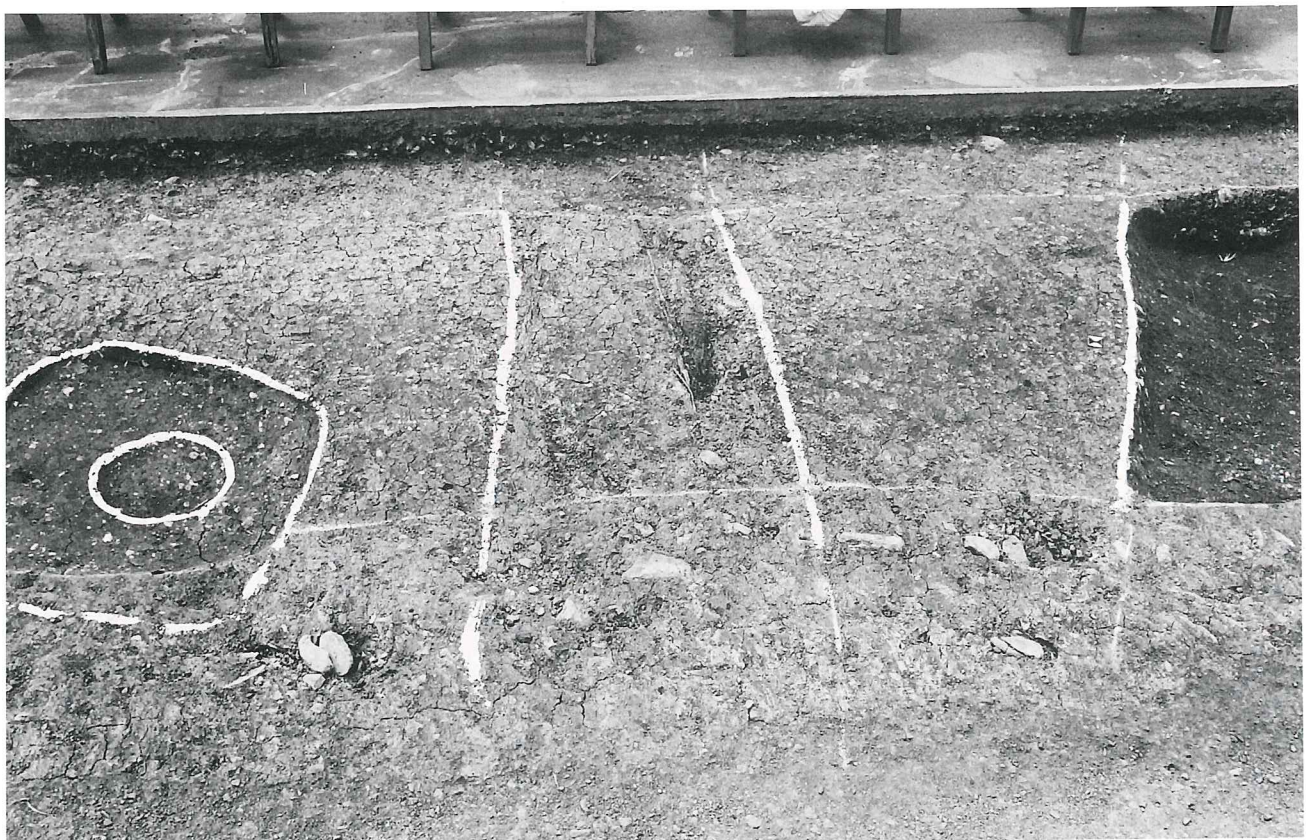
(1) SH9P8 (方形の掘方もち、直径30~50cmの柱痕跡が確認できた。北より)



(2) 調査区西端柱穴群 (比較的大きな柱穴で古墳後期の掘立柱建物となるか。東より)



(1) SZ 3 (一部の検出に留まる。北より)



(2) SD 5 (近世末の区画溝。北より)



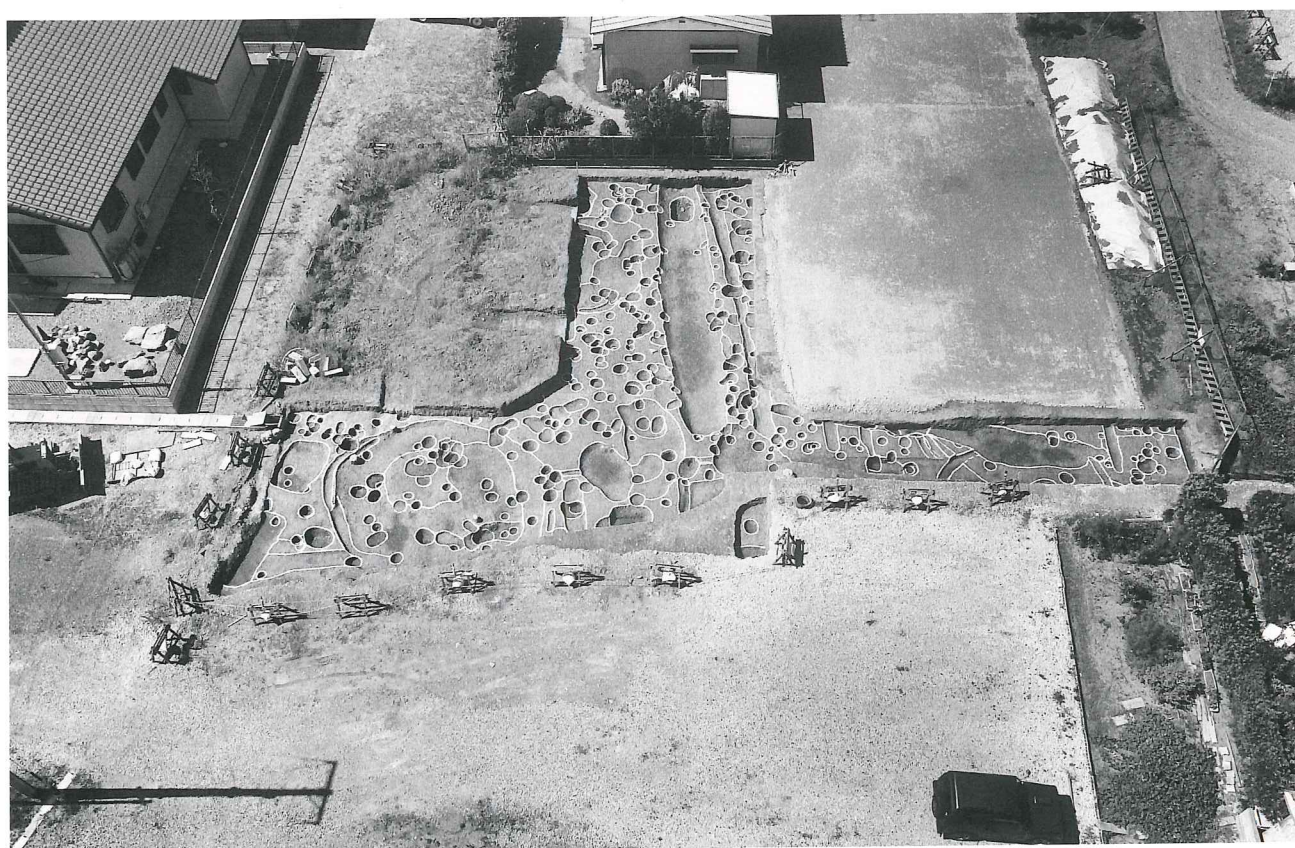
(1) SH9柱穴作業風景（人物と比較すると柱穴の大きさが分かる。東より）



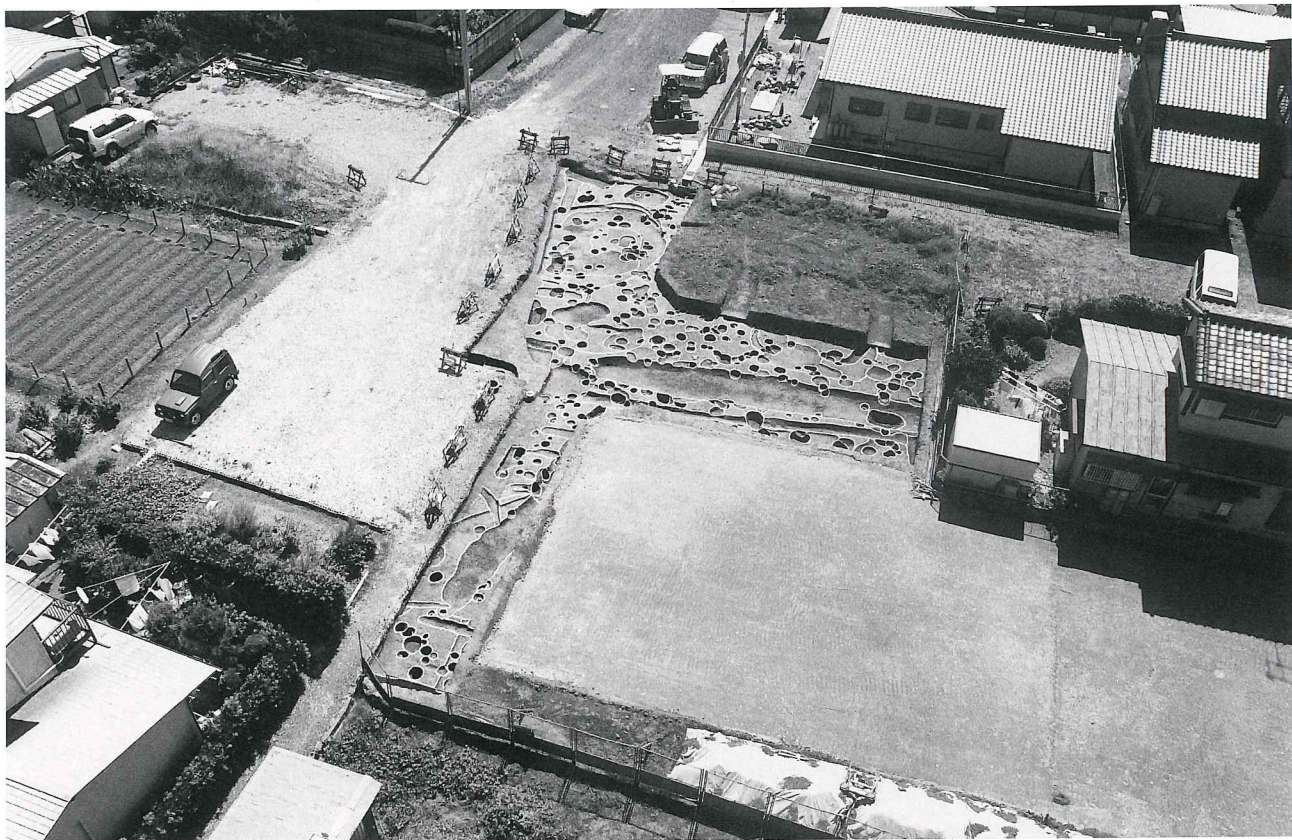
(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第44・45次発掘調査区空中写真遠景（右側が原野谷川で、上が磐田原台地となる。東より。）



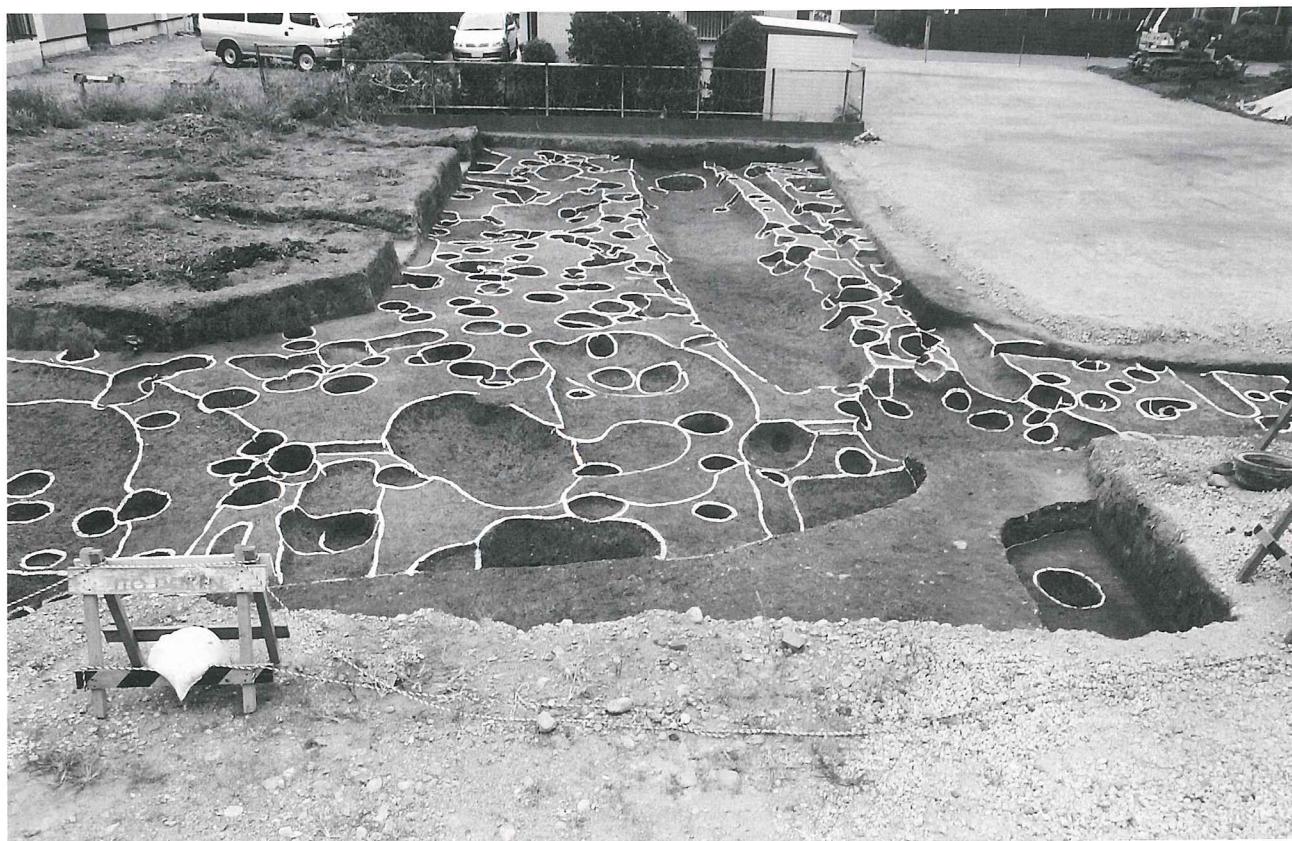
(2) 第44・45次発掘調査区空中写真全景（竪穴住居や柱穴が密集して検出された。東より）



(1) 第44・45次発掘調査区空中写真全景（中央の大溝は戦国期の館の区画溝である。北より）



(2) 第44・45次発掘調査区全景（南より）



(1) 第45次発掘調査区全景（中央の大溝は戦国期の館の区画溝である。東より）



(2) 第44・45次発掘調査区全景（北より）



(1) S B 2 (円形に近いプランの弥生後期の竪穴住居である。北より)



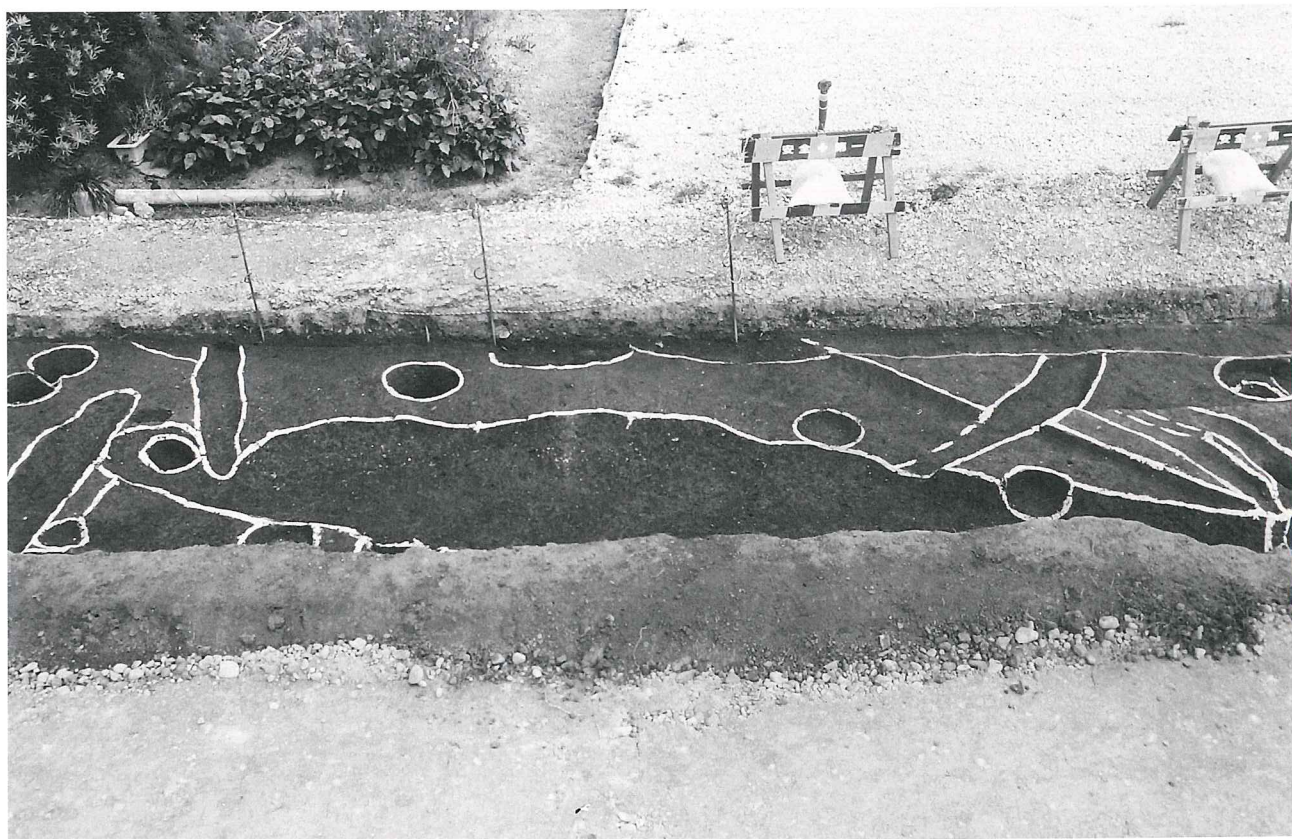
(2) S B 2 (四隅の柱が重複するため数回の建替が認められた。東より)



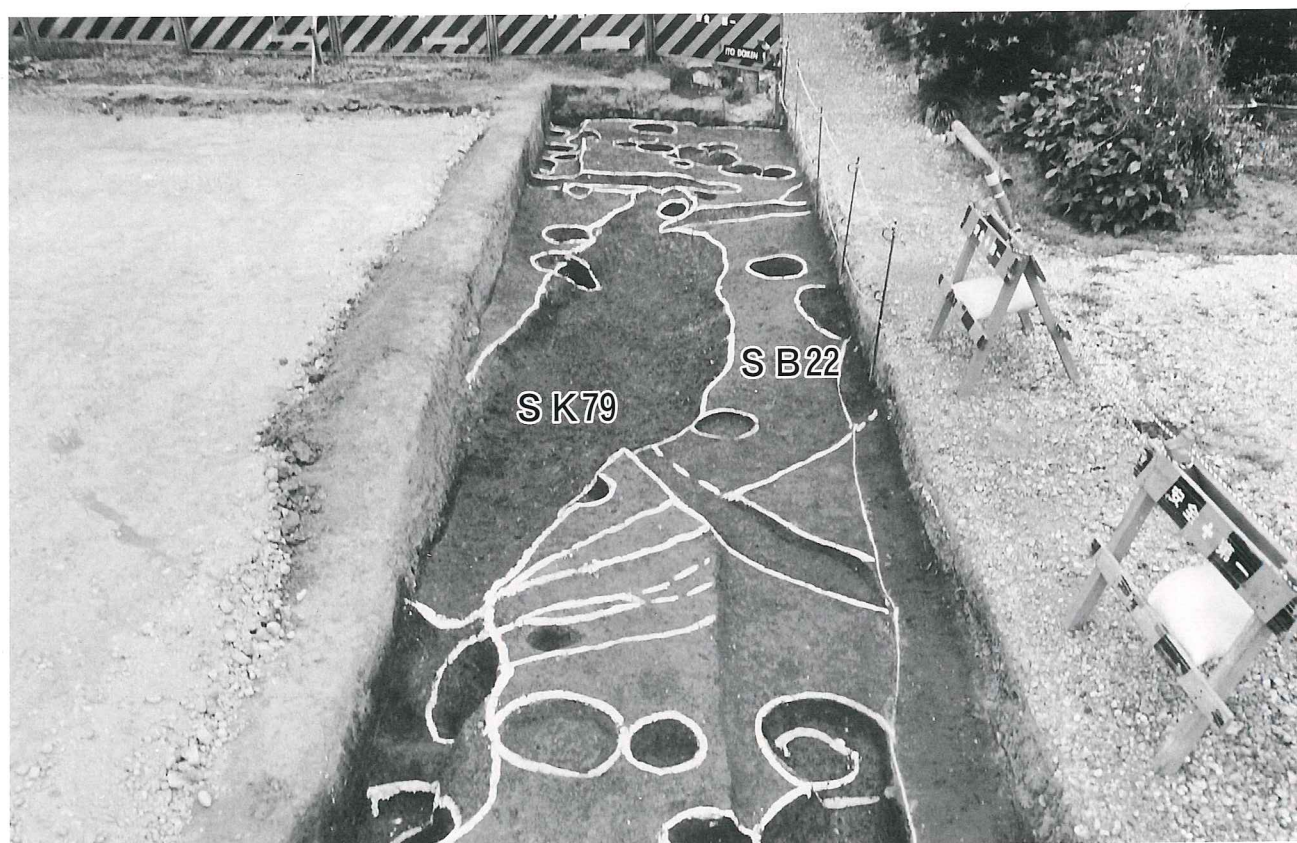
(1) S B 2 (壁際を幅広の溝を巡らすような掘方をもつ。上が北方向。真上より)



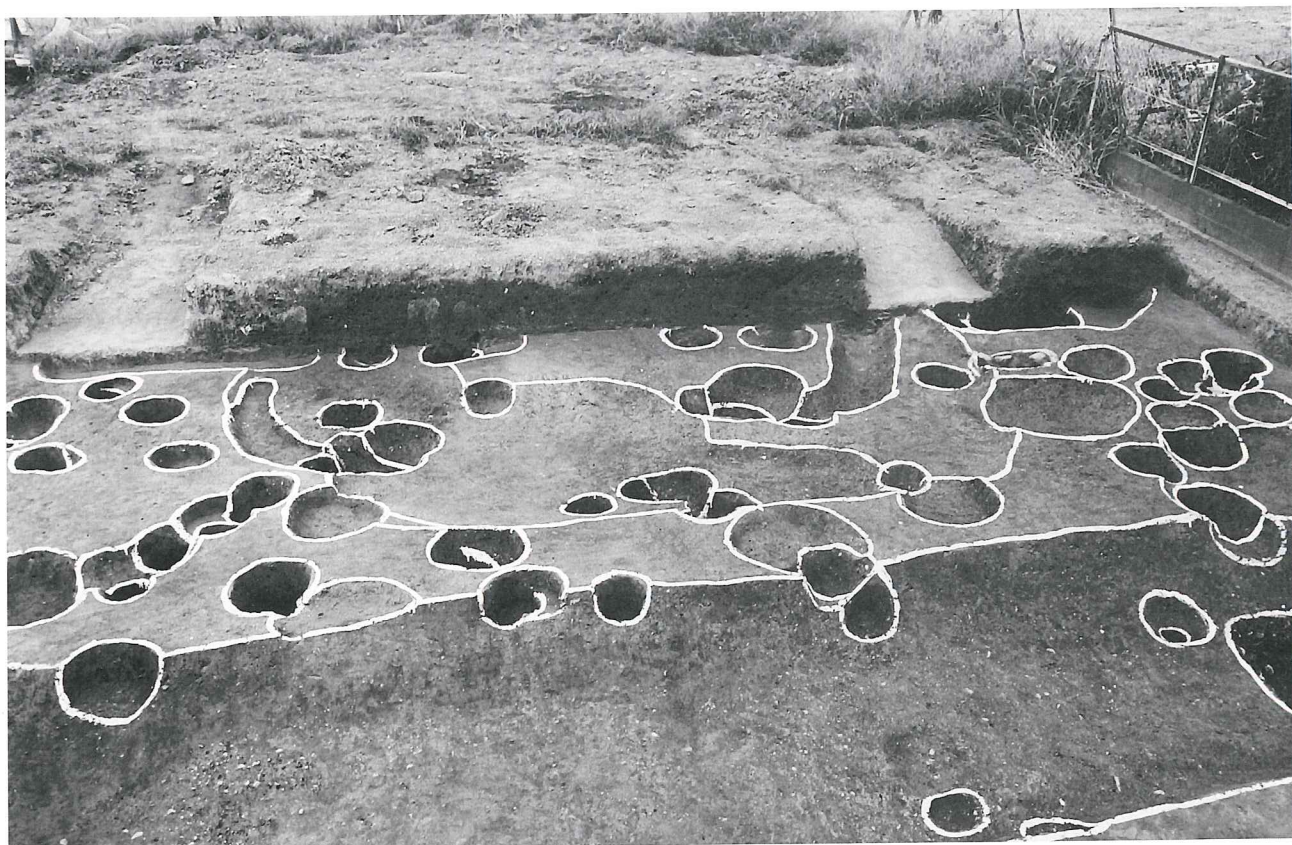
(2) S B 2 出土石器 (壁際より出土した台石である。東より)



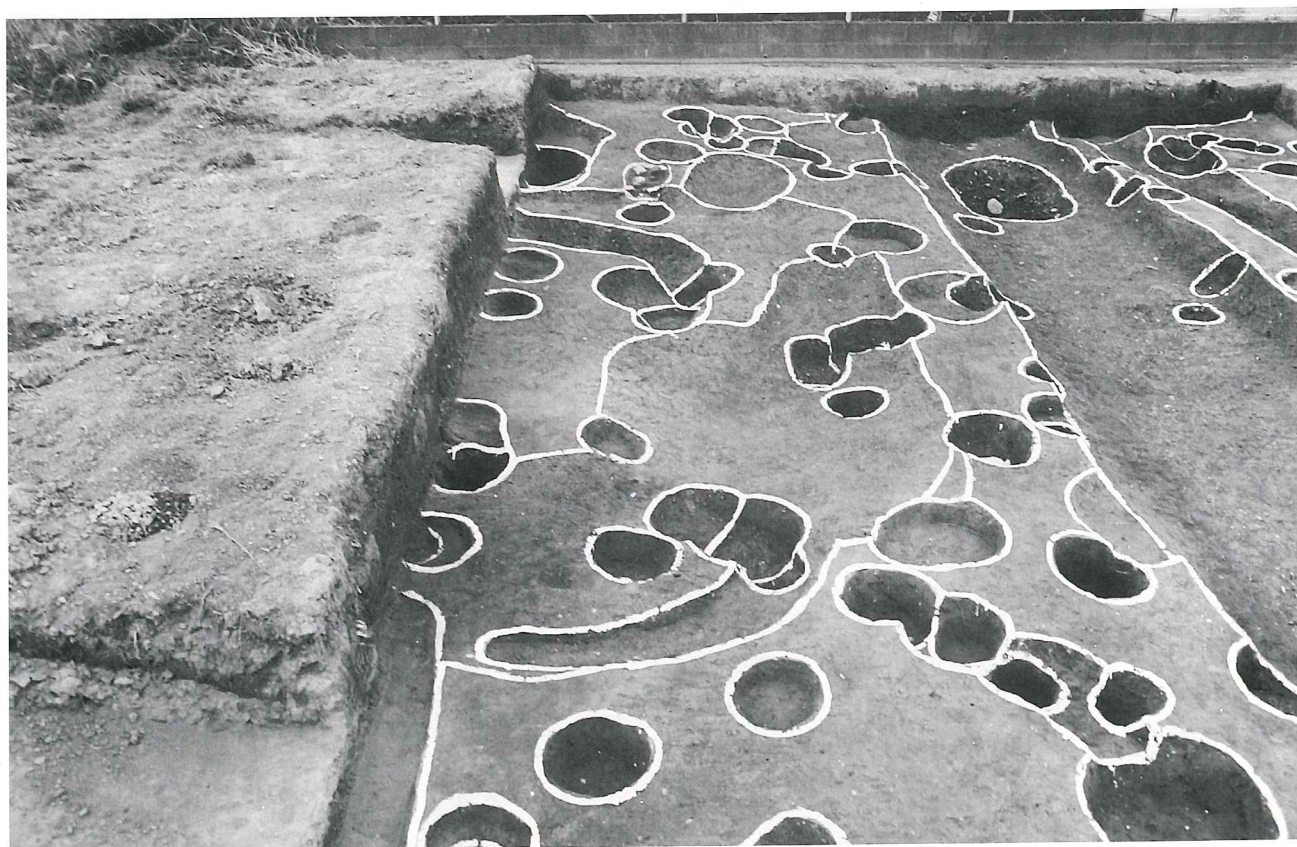
(1) S B22 (壁溝を巡らす楕円形プランの弥生中期後葉の竪穴住居である。西より)



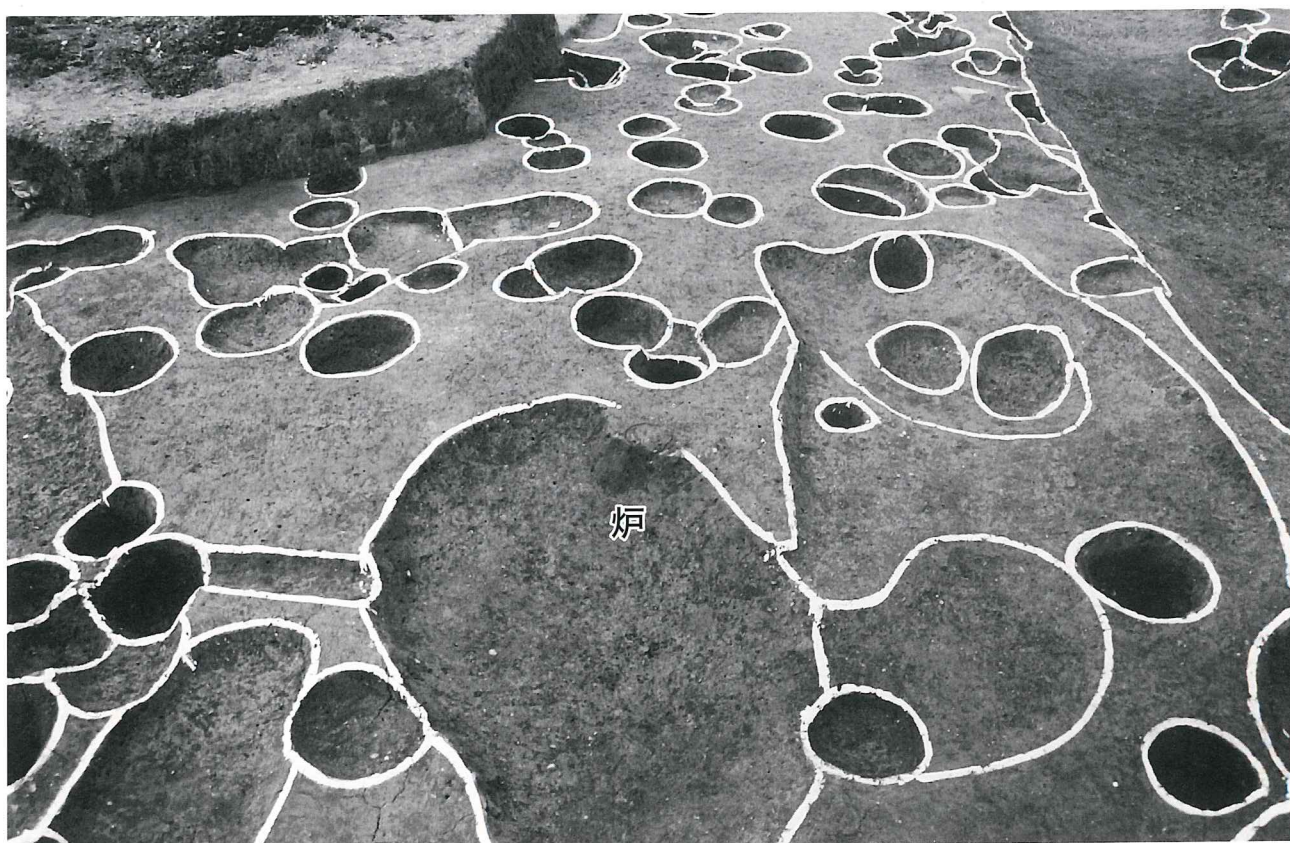
(2) S B22 (S K79よりも古いがどちらも弥生中期後葉の土器を出土する。南より)



(1) S B23 (一部壁溝が確認できた隅丸方形プランの弥生後期の竪穴住居である。北より)



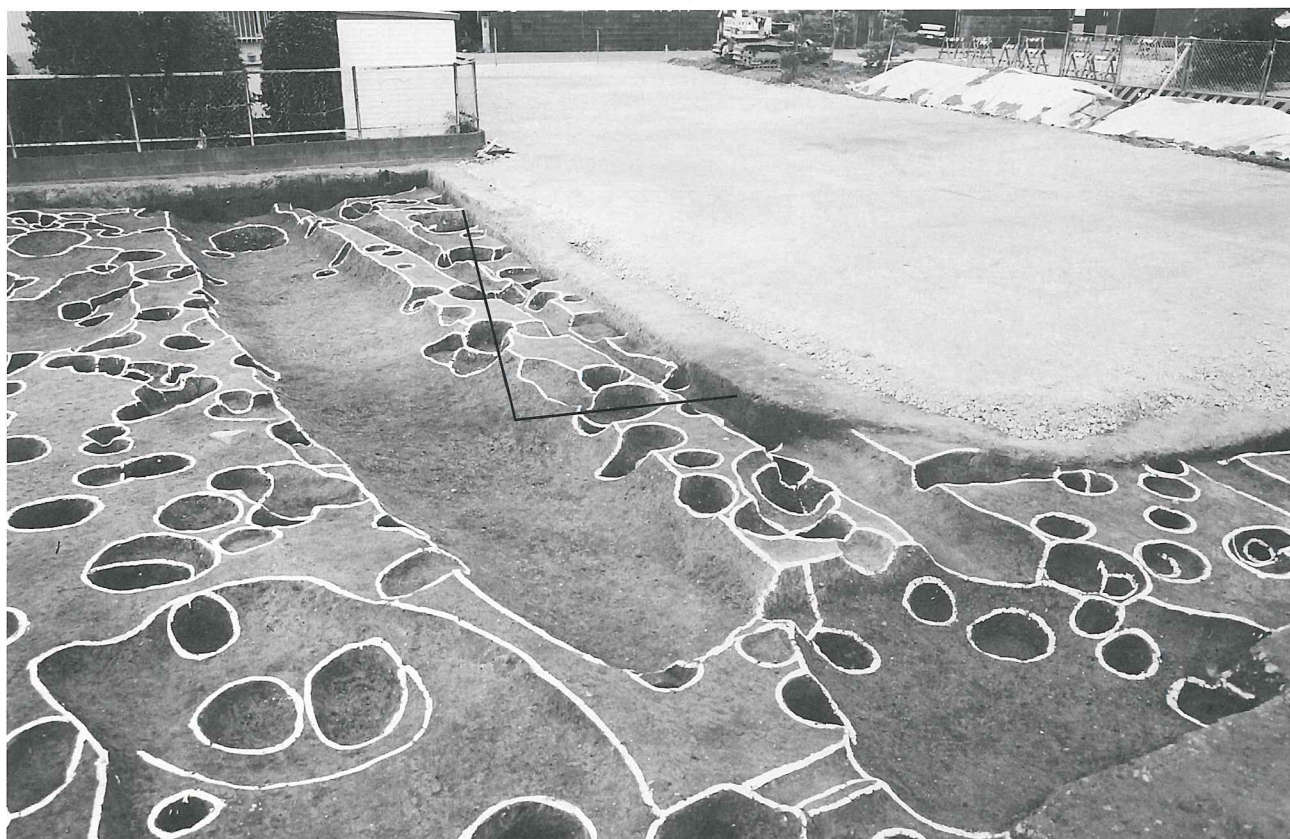
(2) S B23 (周辺には弥生中～後期の土坑が見られる。東より)



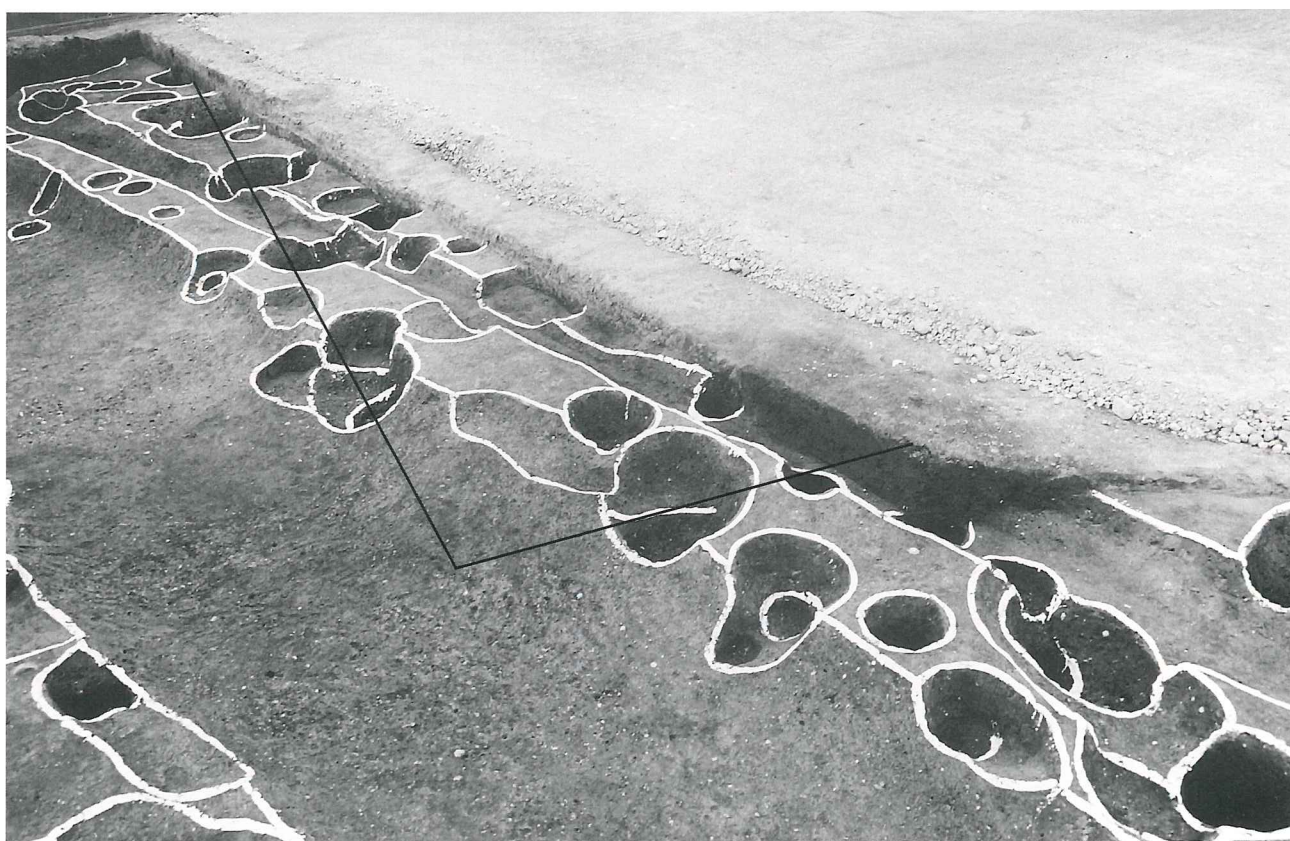
(1) S B 2 北側柱穴群・炉
(一部貼床面が検出されたが明確なプランは確認できなかった竪穴住居であろう。東より)



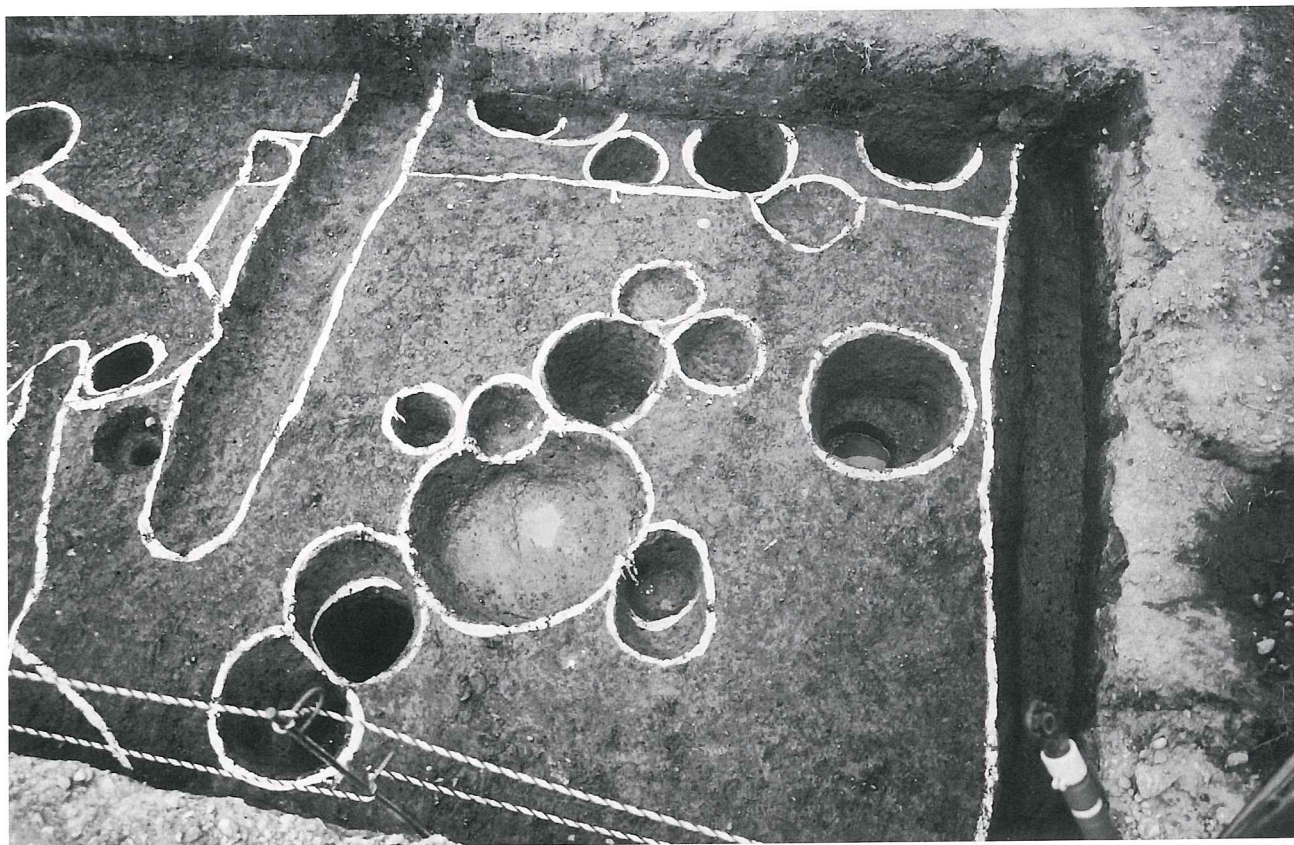
(2) S B 2 北側柱穴群・炉
(あまり良く焼けていない地床炉である。S K 66よりも新しいため弥生後期以降の竪穴住居である。東より)



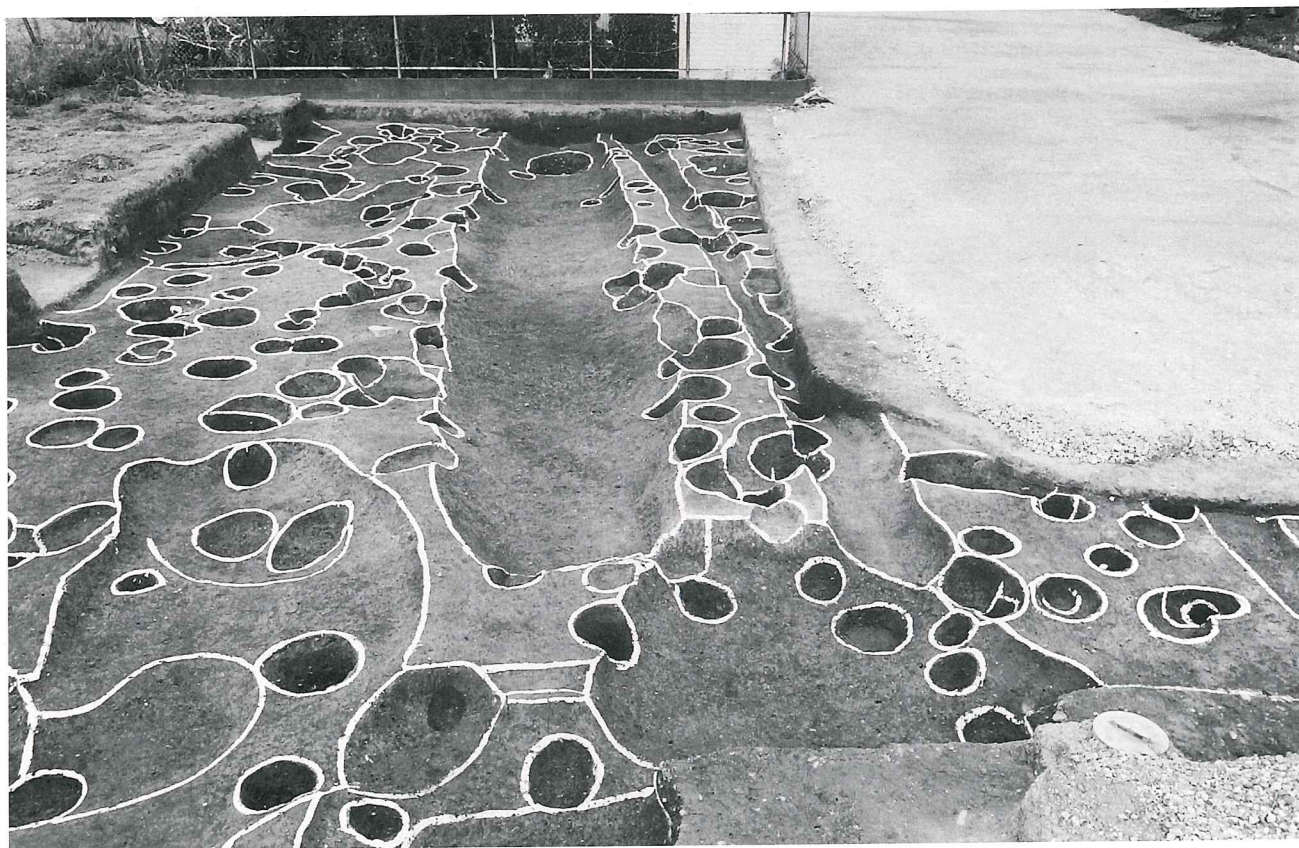
(1) SH1 (古墳時代の掘立柱建物か。東より)



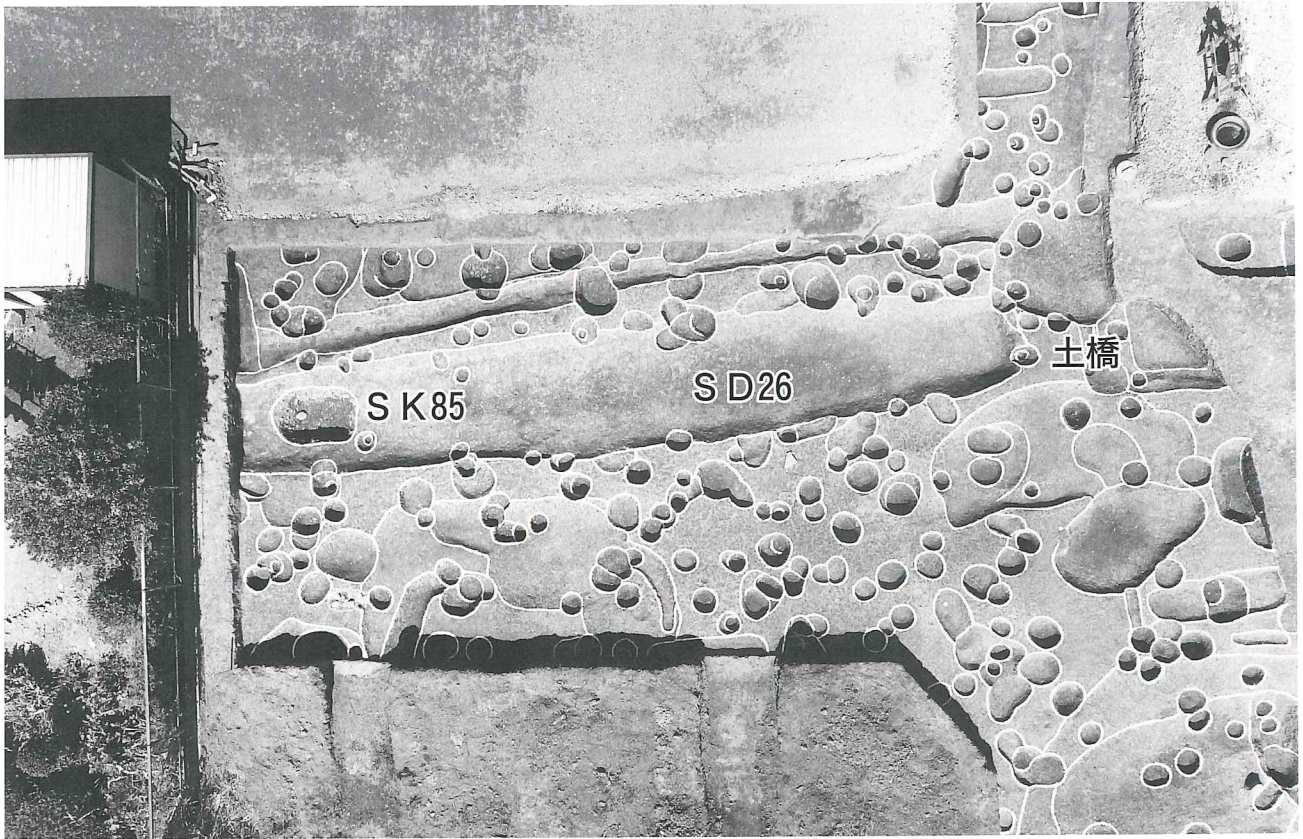
(2) SH1 (一部柱がS D26により潰されている。東より)



(1) 調査区北端柱穴群（深い柱穴は竪穴住居の柱穴になると見られる。東より）



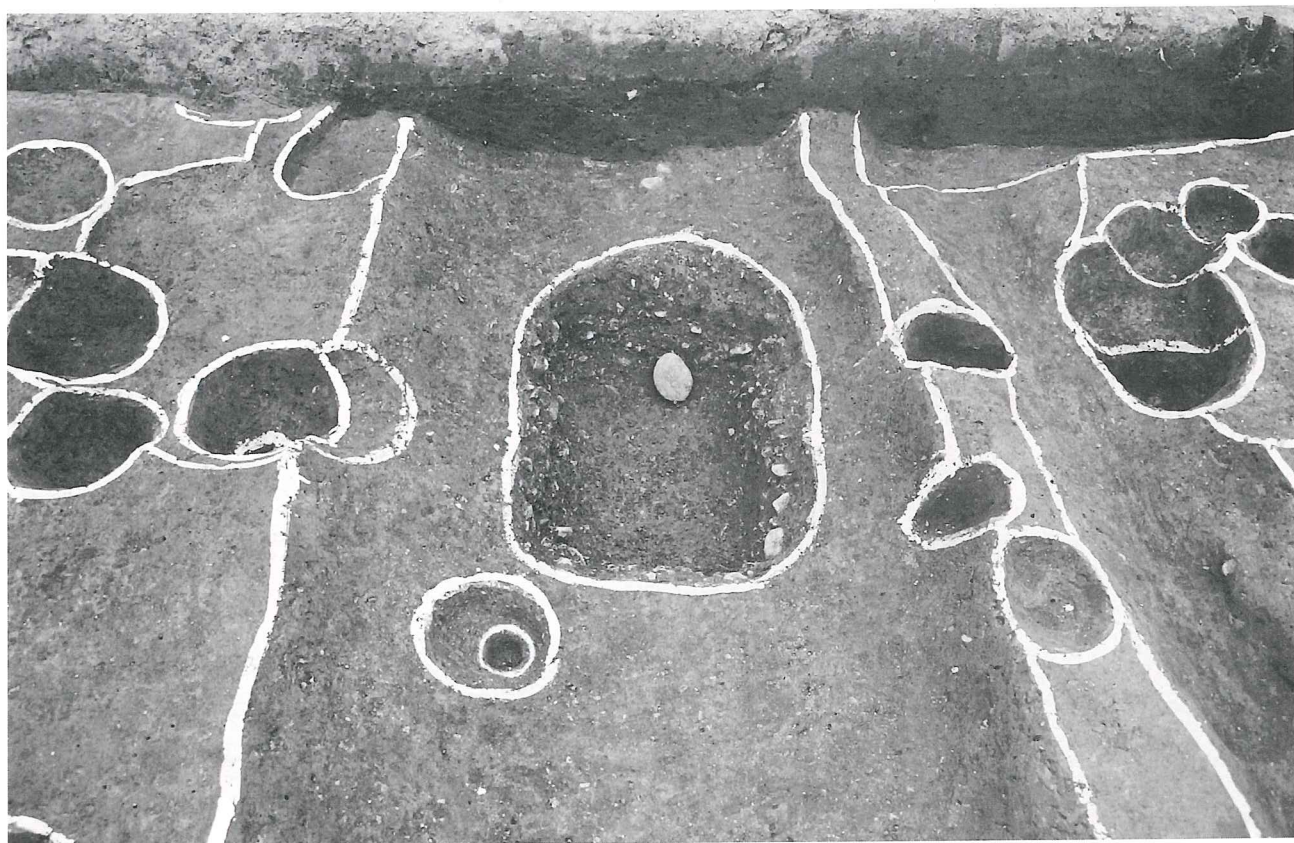
(2) S D26（戦国期の館の箱堀状区画溝。東より）



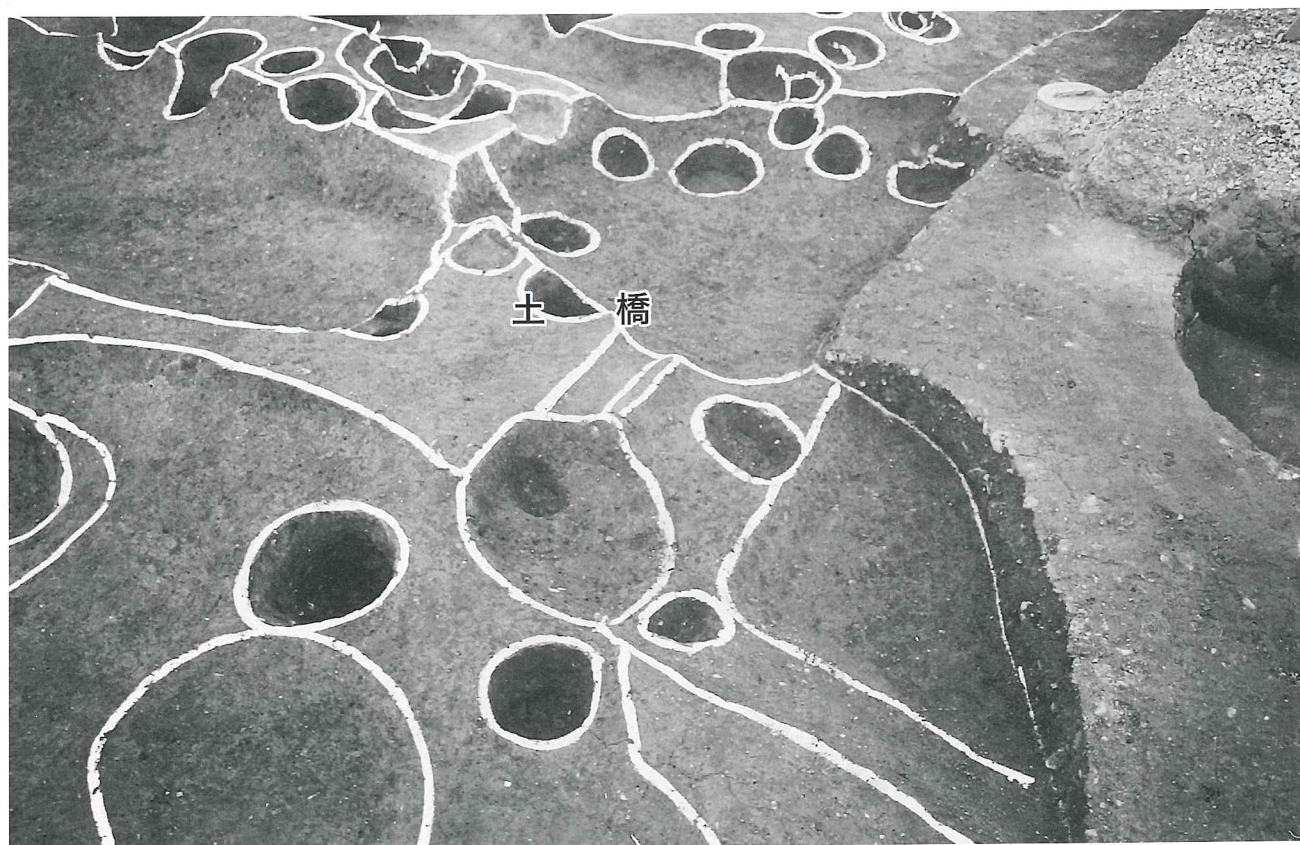
(1) S D 26 (右側土橋は館の平虎口になる。真上より)



(2) S D 26 (あまり深くない溝であるが配置から見ると防御性はある。西より)



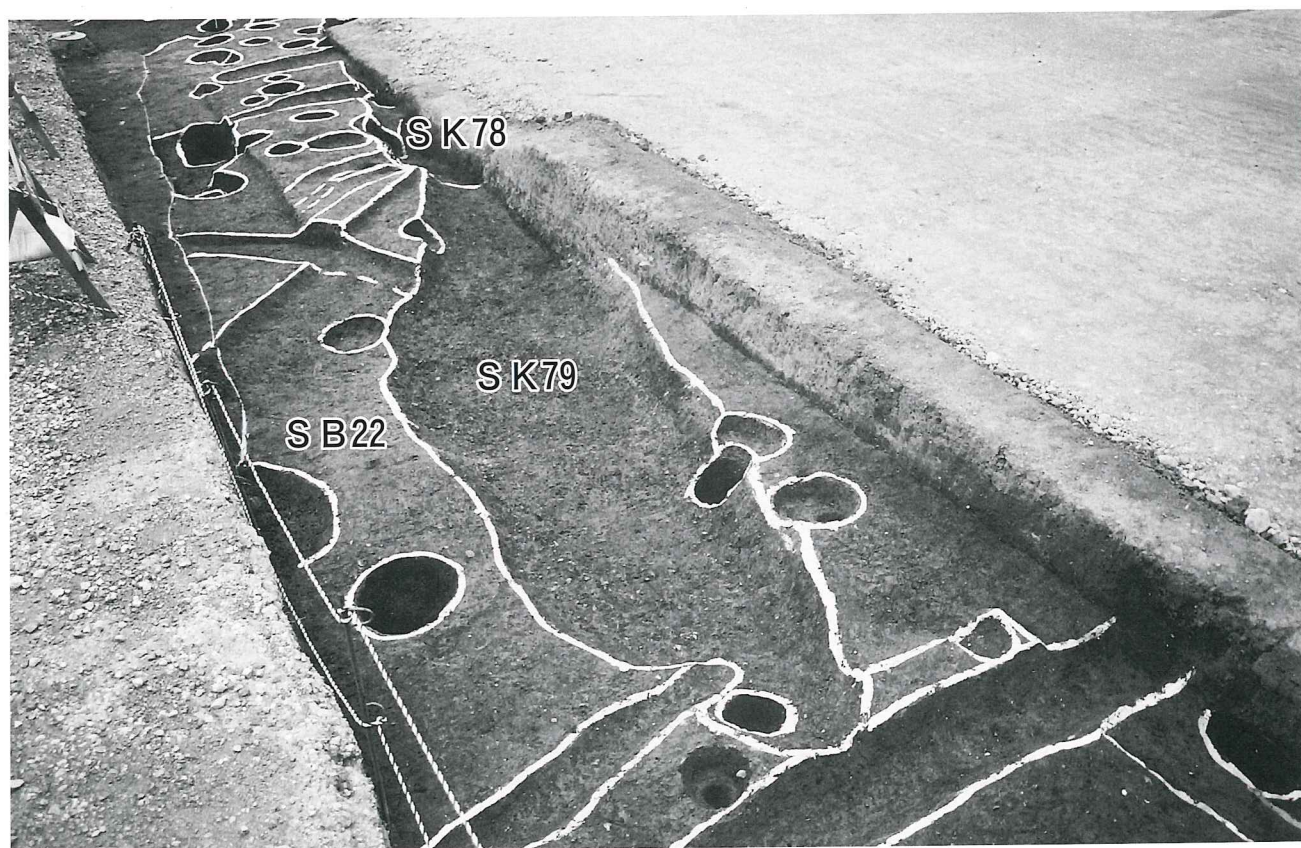
(1) S D26内土坑 S K85 (比較的深い土坑であるため水溜用と思われる。東より)



(2) S D26土橋 (土橋は館の平虎口となる。南より)



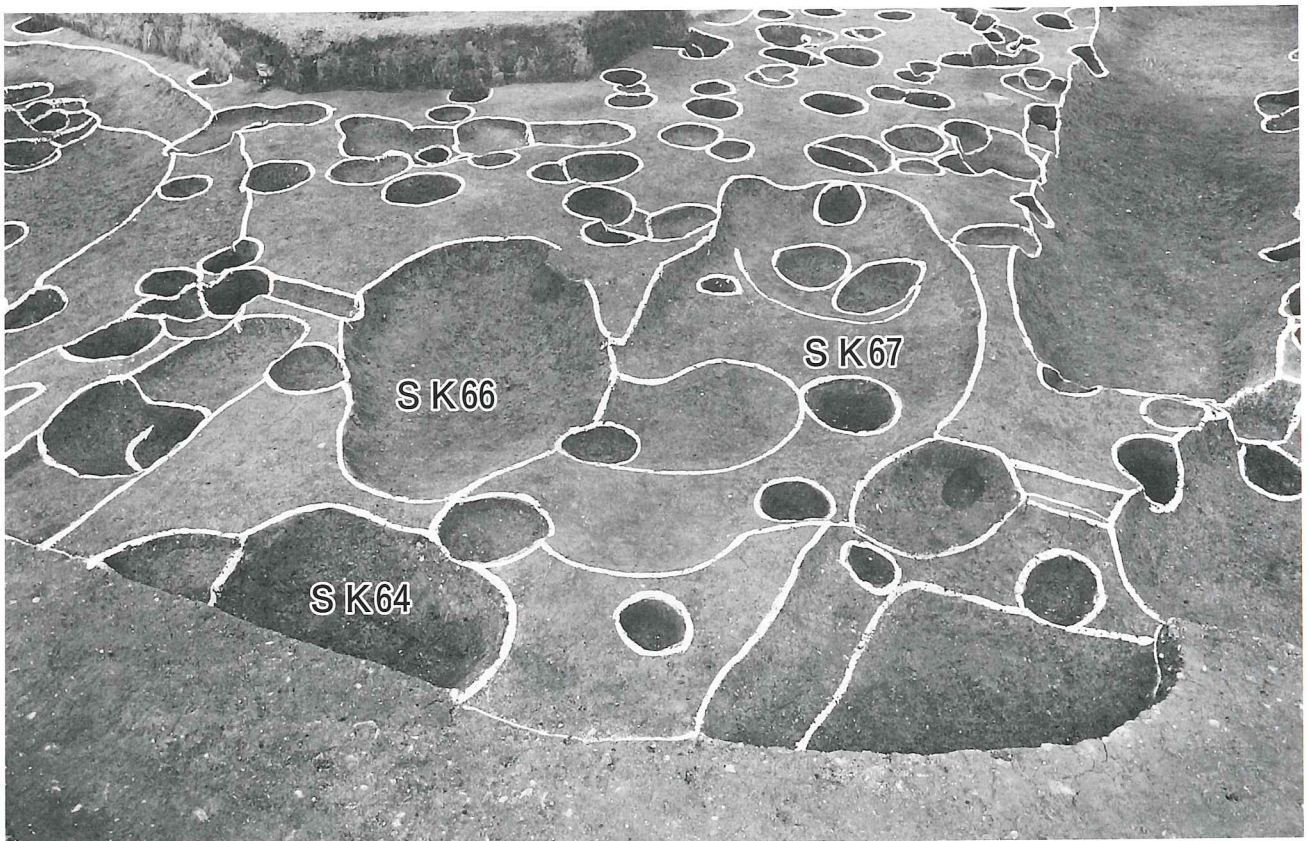
(1) S D26土層（自然堆積を示し水の流れた痕跡はない。東より）



(2) S K78・79（弥生中期後葉の土坑で土器片が多量に出土した。北より）



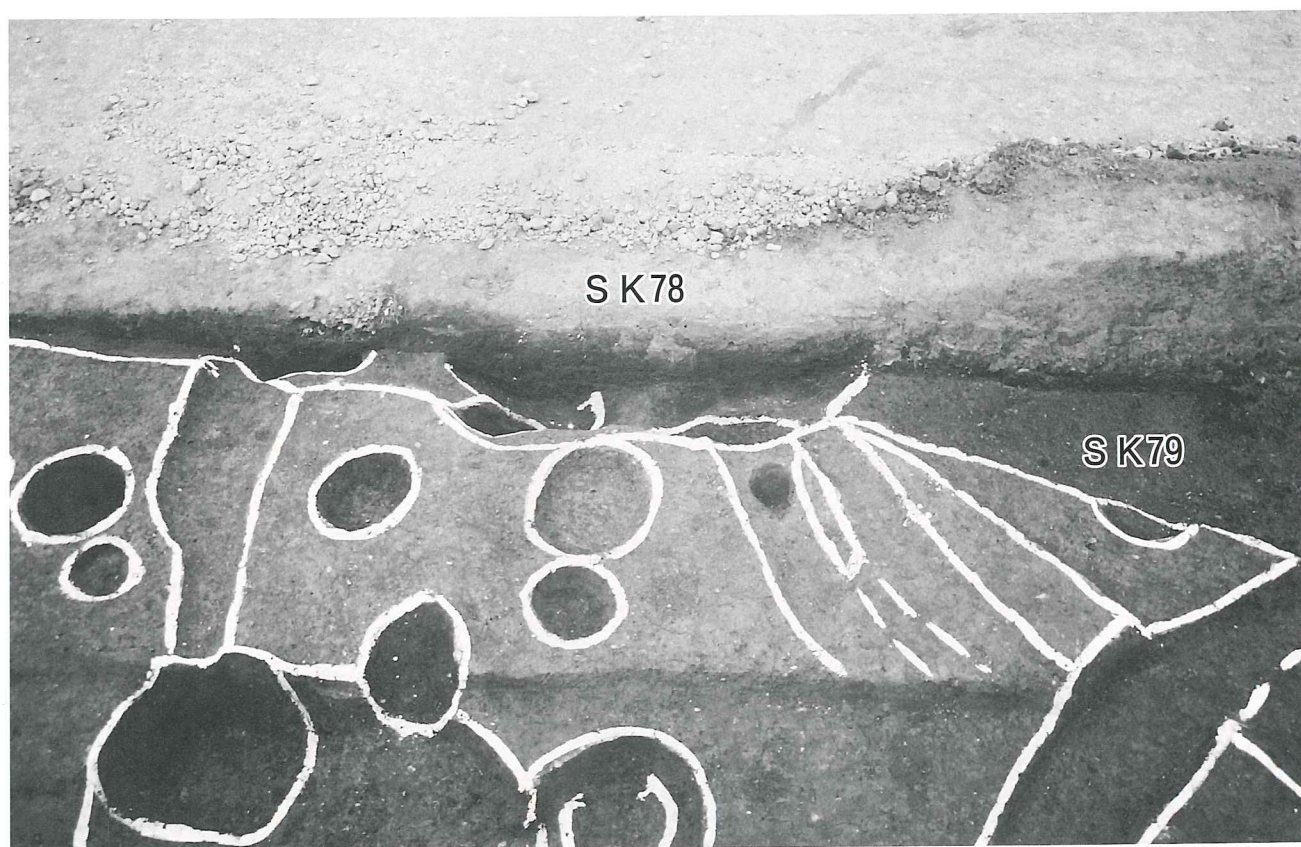
(1) S K63 (弥生中期後葉の方形土坑である。東より)



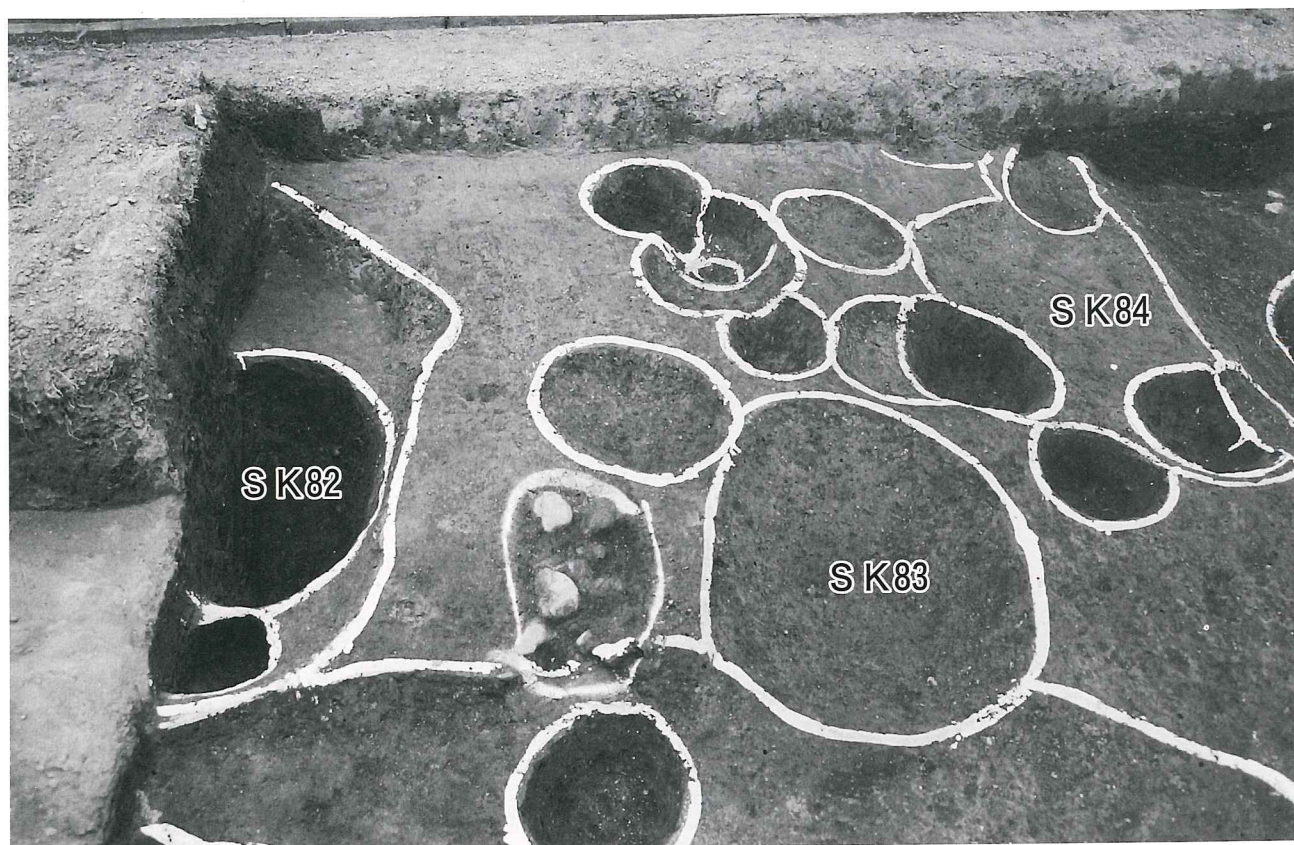
(2) S K64・66・67 (S B 2 に関係した弥生後期の土坑群であろうか。東より)



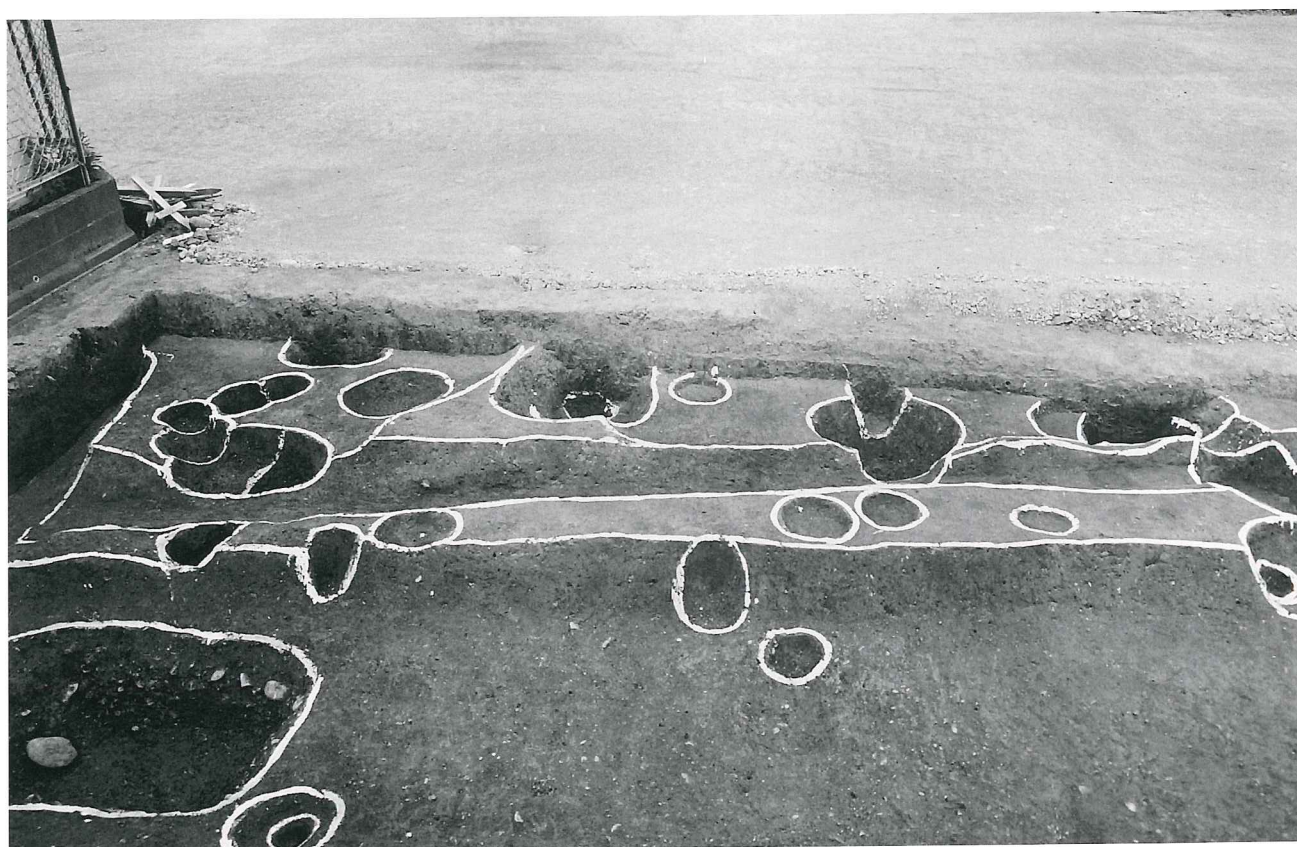
(1) S K69 (弥生後期の土坑である。東より)



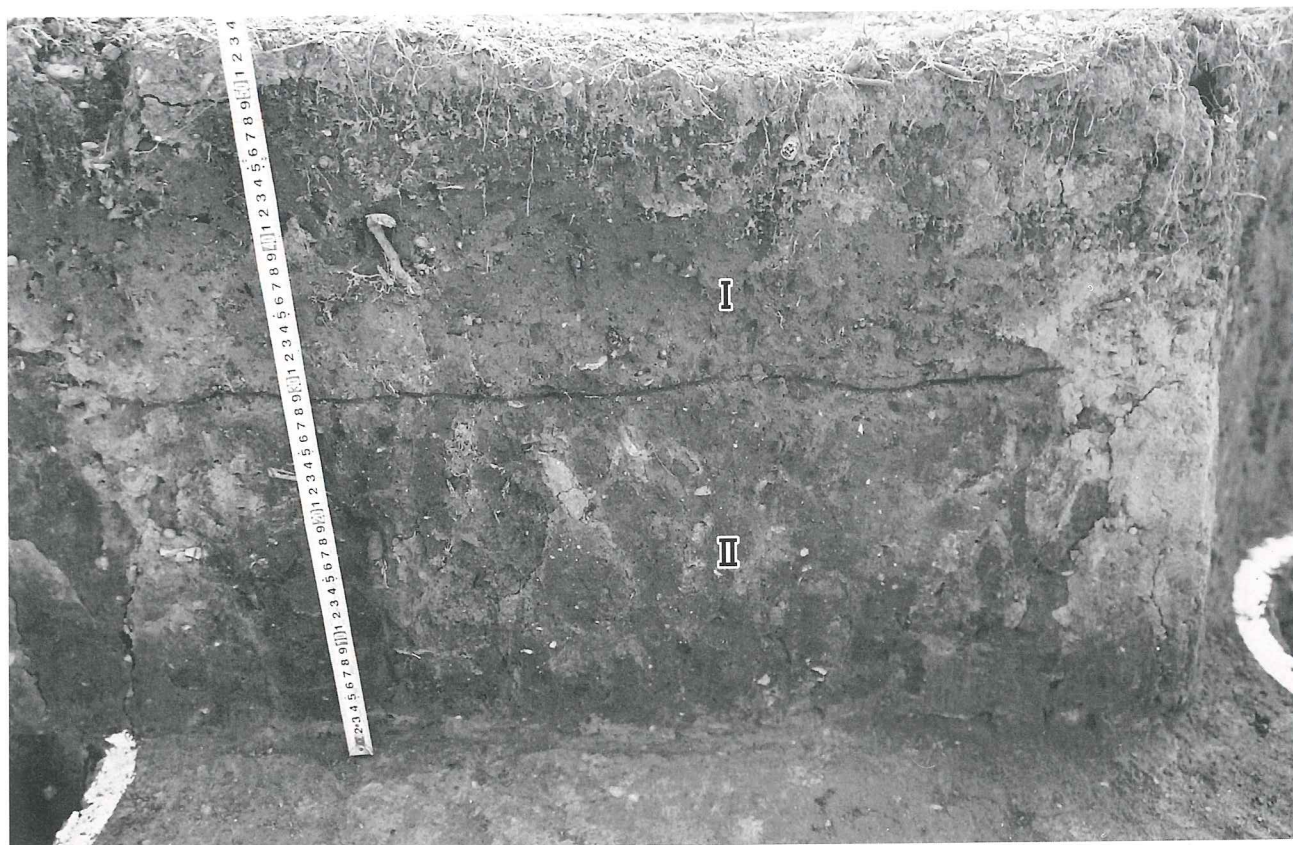
(2) S K78 (弥生中期後葉の土坑である。東より)



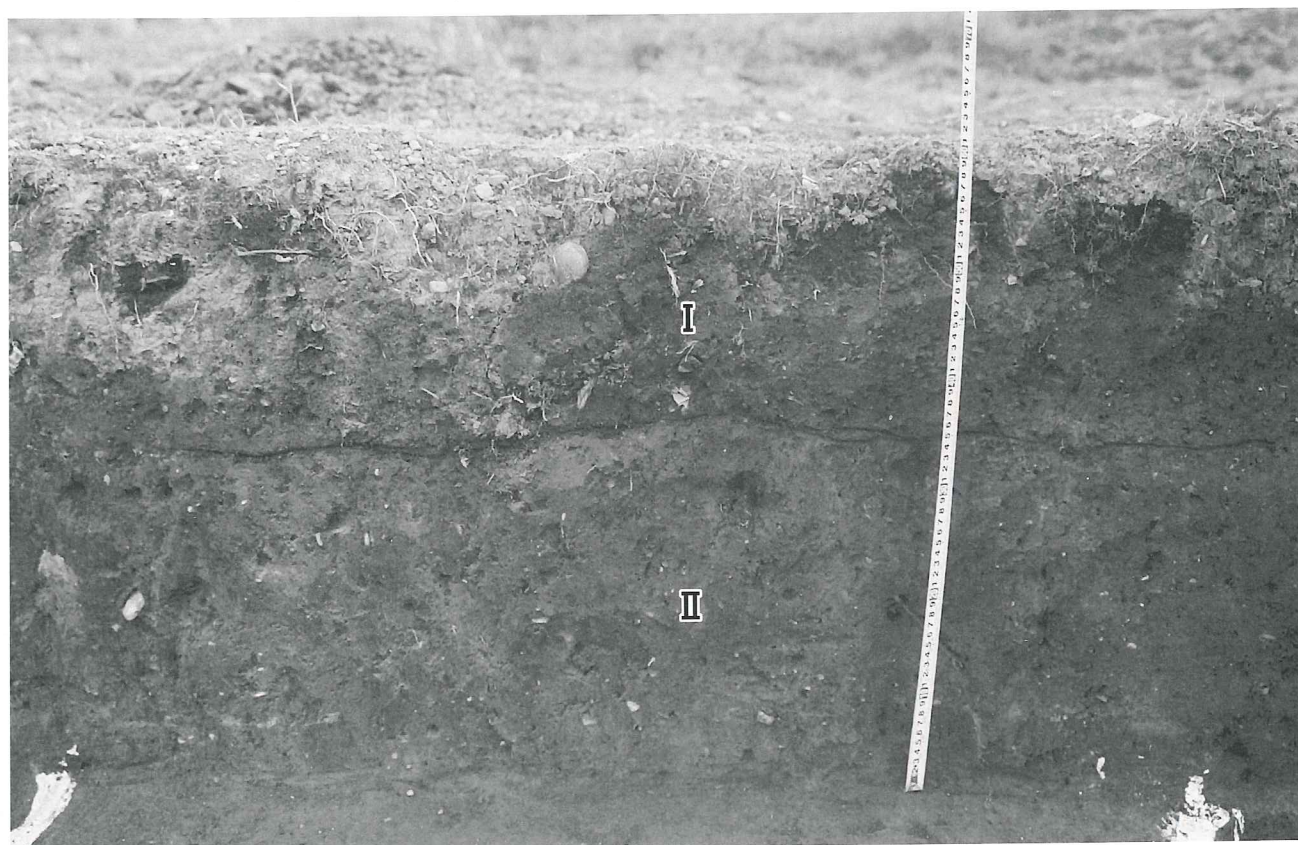
(1) SK82~84 (SB23に関係した弥生後期の土坑群であろうか。東より)



(2) SX11 (古墳後期の竪穴住居か。南より)



(1) 第44次発掘調査区西壁土層
(弥生中期～古墳後期の土器を出土する包含層 (II層) が30cmの厚さで存在する。東より)



(2) 第45次発掘調査区南壁土層
(弥生中期～古墳後期の土器を出土する包含層 (II層) が35cmの厚さで存在する。北より)



(1) 重機による表土掘削作業風景（包含層上面まで表土を掘削することができた。）



(2) 人力による作業風景（S B 2の調査を進めている。）

報告書抄録

フリガナ		カケノウエイセキ		シャシンズハンヘン		
書名		掛之上遺跡41・44・45 写真図版編				
副書名		袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書17				
編集著者名		松井一明				
編集機関名		袋井市教育委員会				
所在地		〒437－1102 静岡県袋井市浅名1208 ☎0538－23－9269				
発行年月日		2006年3月25日				
フリガナ 所収遺跡名		カケノウエイセキ 掛之上遺跡				
フリガナ 所在地		シズオカケンフクロイシタカオカケノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 44′ 24″	137° 55′ 53″	20050708	321.0㎡	袋井市駅前第二地区 土地区画整理事業に 伴う西通掛之上線・ 掛之上線・区画5号 線道路建設
22216	151			～ 20060325		
所収遺跡名		種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
掛之上遺跡		集落跡	弥生時代 中・後期 古墳時代 後期 奈良時代 中世 近世	竪穴住居 方形周溝墓 土坑 竪穴住居 掘立柱建物 大型掘立柱建物 区画溝・土橋 地割溝	土器・石器 土器（土師器・須 恵器） 陶磁器・かわらけ 陶磁器	弥生時代中・ 後期拠点集落 有力集落 郡衙正倉関連

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書17

掛之上遺跡 41・44・45

— 写真図版編 —

発行年月日 2006年3月25日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0022 静岡県袋井市方丈3丁目3-11